



平成24年度

「エコシティたかつ」推進事業 報告書

平成24年3月 川崎市高津区役所企画課

## 目次

1. 平成 24 年度「エコシティたかつ」推進会議	1
第 1 回「エコシティたかつ」推進会議	2
中間報告会	23
第 2 回「エコシティたかつ」推進会議	39
2. エコ企業調査プロジェクト記録	69
3. 「エコシティたかつ」推進フォーラム記録	74
4. 新聞記事等	85

## 1. 平成24年度「エコシティたかつ」推進会議

第1回	■日時：2012年6月5日（火） 15：00～17：15 ■場所：高津区役所 5階第1会議室
中間報告会	■日時：2012年11月9日（金） 14：50～16：00 ■場所：高津区役所 5階第3会議室
第2回	■日時：2013年3月18日（月） 13：30～15：00 ■場所：高津区役所 5階第1会議室



## 第1回「エコシティたかつ」推進会議 摘録

■日 時：2012年6月5日（火） 15：00～17：15

■場 所：高津区役所 5階第1会議室

■出席者：岸（由二）委員・竹井委員・山田委員・伊中委員・住田委員・山口委員・横山委員・岸（秀子）委員・酒井委員・恋塚委員・武田委員・田邊委員（金子委員の代理出席）・飯塚委員（磯田委員の代理出席）・高倉委員・大川委員

■配布資料：資料1：「エコシティたかつ」推進方針

資料2：「エコシティたかつ」推進事業 2011年度概要版

資料3：「エコシティたかつ」推進事業 2011年度事業振り返りPP

資料4：「エコシティたかつ」推進事業 プロジェクト展開スケジュール（案）

資料5：「エコシティたかつ」推進事業 2012年度スケジュール（案）

資料6：エコ・エネライフコンクール関連資料

資料7：「エコシティたかつ」推進会議委員名簿

資料8：「エコシティたかつ」推進会議設置要綱

### ■議事概要

#### 1 開会

進行役 企画課佐藤係長より開会宣言。

#### 2 委員委嘱状交付

秋岡高津区長より推進会議委員に委嘱状を手交。

#### 3 区長挨拶

秋岡高津区長より挨拶。

高津区は地域から環境まちづくりに向けて平成20年度に「エコシティたかつ」推進方針を策定して以降、区民・市民活動団体・企業・学校など地域の多様な主体と協力し合い、総合的多面的な取り組みを進めている。学校流域プロジェクトでは、昨年度までに15校の小学校のうち13校までビオトープを整備することが出来た。「たかつの自然の賑わいプロジェクト」では、モデル事業を実施することも出来た。また、エコ・エネライフコンクールは、今年度で4度目の実施になり、区民の環境に関する意識を高め、身近な地域からの環境まちづくりに貢献しているなど、「エコシティたかつ」推進会議を軸とした連携の促進や取り組みが進んでいる。今期は区民の皆様方とより一層一緒になって、各プロジェクトを進めながら、環境意識の醸成を図り、生活様式の変革を促しながら、地球温暖化による気候変動へも対応し得る、持続可能な環境型都市「エコシティたかつ」の実現を目指していきたい。そのためには皆様方のお力添えを頂くことが大切だ。そのことをお願いして挨拶

拶と代えたい。

#### 4 委員自己紹介

出席した委員から、一言ずつ自己紹介があった。

#### 5 委員長・副委員長選出

岸（由二）委員に委員長を、横山委員に副委員長をお願いしたい旨、事務局から提案（満場拍手で選出の承認をした）。なお、横山委員には、地球環境推進室所管の CC かわさきエコ会議の委員もお願いしたい旨、確認。

また、「エコシティたかつ」推進会議から区民会議に推薦する委員の選出については、欠席の委員もいるため、後日事務局に調整を一任することで承認。

#### 岸委員長より挨拶

3.11 があのようなかたちで日本に、世界にショックを与えて、ある意味では環境に対する意識も露呈しているかと思う。一番の大きなポイントは、私が委員長を引き受けてきたときからいつも話しているが、地球温暖化というのは炭酸ガスの削減だけでは立ち向かえないということ。温暖化は適応策をしっかりとやらないといけないというのが世界の常識。適応策とは、治水、土砂災害、渇水対応対策。さらに、生物多様性危機も深刻になってきている。日本はようやく愛知での COP10 を受けて、愛知目標達成、生物多様性 10 年に向けて委員会が出来、経団連等も動き出した。これから企業その他にはどうやって足元で生物多様性に貢献するのかという話がどんどん降りてくると思う。これは、「エコシティたかつ」がそういった事態を予想して創っている枠組みにぴったりはまる展開である。まずまず「エコシティたかつ」を頑張っていけないといけないと思っている。

#### 横山副委員長より挨拶

高津ではまさに地域から様々な課題に取り組んでいる。前期まで取り組んできたビオトープの課題、学校等の連携の中で出てきた課題等、やり残した問題がたくさんある。微力ながら皆さんと一緒にやっていきたい。

#### 6 議事

##### (1) 「エコシティたかつ」推進会議について

資料 8 「エコシティたかつ」推進会議設置要綱を用いて、事務局（久保）より説明。

##### (2) 適応策及び流域思考について

岸委員長より資料 1 「エコシティたかつ」推進方針、資料 2 「エコシティたかつ」推進事業 2011 年度概要版を用いて説明、およびパワーポイント資料を用いてミニレクチャーが行われ、以下のような説明があった。

資料1に「自然の賑わい」という言葉が掲げられている。これは、実は「bio diversity」という言葉の本来の意味を表現したものである。生物多様性のもともとの定義は、生き物が色々な種類がいるということではない。「生き物がたくさん暮らせるように、生態系が多様である」ということがもう一つ基礎として入っている。もし長く訳すのであれば、「生態系と生き物の多様性」とするのが、正しい概念である。私は、生物多様性という言葉を生態系の多様性まで含めた意味とするのであれば、「自然の賑わい」とするのが良いと思っている。

今年も地球サミットがそろそろ開催されるが、テーマは生物多様性でも温暖化でもなく、「どうやって持続可能な緑の経済を創るか」が主眼である。先進国日本では、炭酸ガスを出さないということだけに集中してしまうが、貧しい人たちが豊かになるには世界から炭酸ガスの放出も止むを得ない。ただし世界全体としてバランスを崩さないようにする一つの方策は、少々温度が上がって豪雨や渇水が不可避となっても、持続可能な生活が崩れないようにする温暖化豪雨対策、温暖化渇水対策に取り組むことが必要だと思う。「エコシティたかつ」は理念としてそういう部分を含んでいる。

### (3) 2011年度の取り組みについて

資料3「エコシティたかつ」推進事業 2011年度事業振り返りパワーポイント資料を用いて、事務局（久保）より説明。

その後、以下のような意見があった。

- ・私どもは昨年度トキワツユクサの除去作業を行なった。トキワツユクサが 1,000 m<sup>2</sup>ほども生息する公園があり、現在根元の方の除去を今年度の課題として検討している。(山田委員)
- ・かわさきかえるプロジェクトで油の回収をはじめ、皆様から寄付を頂いて、昨年度市内に回収油をバイオディーゼルにする機械を設置することができた。総額 500 万円強だったが、そのうち市民寄付が 320 万円あった。そして、念願が叶い、一般市民から回収した油でエコバスを動かすことに到達した。そのエコバスで、今ご紹介いただいたようなエコ企業を見せて頂いた。

かえるプロジェクトと共に流域思考を高津区内でどのように展開し、自分達の活動にどう据えていくかということにチャレンジ出来ればと思っている。(伊中委員)

### (4) 2012年度推進事業の進め方について

資料4「エコシティたかつ」推進事業 プロジェクト展開スケジュール(案)、資料5「エコシティたかつ」推進事業 2012年度スケジュール(案)を用いて、事務局(企画課八木課長)より説明。

## 意見交換

- ・流域思考の話を変えて伺って、4年前と違い、少しずつ理解してきた。自分も参加してみたいという気はある。これからゴミ連はなくなるが、地域に根ざした一つ一つの行事に時間を割いて取り組んでいきたいと思っている。(住田委員)
- ・今期は小流域単位での取り組みに軸足を置きながら、生物多様性との関連を勉強し、「エコシティたかつ」で提案される活動に参加したいと思っている。(山口委員)
- ・私が住んでいるのは市街地化されてコンクリートとアスファルトに覆われている地域。町会など地域に開かれた取り組みはあるが、いま一つ連携を深められていない。小学校のビオトープづくりに地域から参加するという発想もあるだろう。地域に根ざしたかたちでの水の流れ、自然の流れ、緑を創るということはあるかなと思う。(横山委員)
- ・都市の中で健全な循環を実現するという意味で、文字通り流域はつくれる。小学校に降った雨をまとめて考えれば一つの流域とみなせる。それをいかに保水し、再利用し、ビオトープ育成を通して生物多様性貢献にもつなげてゆけるか。学校という空間を一つの流域として扱い、温暖化適応策、緩和策、生物多様性貢献にもつなげてゆくモデル拠点にできる。(岸委員長)
- ・前任校だった幸区の学校に大きなコンクリートの池があり、池を使って環境学習が出来ないかなと考えていた。鶴見川流域ネットワークの方たちに相談してアドバイスをいただき、学習を深めていくことが出来た。梶ヶ谷小学校に異動してくると立派なビオトープがあり、ここでも鶴見川流域ネットワークから来ていただいたが、どちらの体験を通して、目に見える生き物がいないところから学習が始まるということに、なるほどと感じた。本年度は多くの学校がこのプロジェクトに入っているということで、エコシティからは1回しか研修に来ていただけないが、それ以外にも学校予算の中で各季節にビオトープを通じた学習を深めていきたい。(岸(秀子)委員)
- ・小学校でビオトープを使って学習をしてきた子供たちが中学校に上がるので、中学校にもビオトープがあって良いのではないかな。小学校で学んだことが中学校でも継続してあるいは発展していけるのかなと思う。一方で我々企業の方も敷地内にビオトープを整備していかなくてはならないのだろうが、厳しい経営状況で、なかなかビオトープをやるうとは言えない。当社に隣接して東高津小学校があり、今年で10年目となるが環境教育をやらせてもらっている。そのよう付き合いの中でそちらからは緑のカーテンについて、こちらは小学校に伺って環境教育というかたちで、今後もお付き合い出来ればと思っている。(酒井委員)
- ・小学校でビオトープを使った学習が出来るのは子供の発達と関係していて、例えば、僕が皆を集めて、隠し持っていたザリガニを出したときの反応は、年齢によって大きく違う。低学年は注目するが、ちょっと引く。3年、4年になると取りに来る。5年、6年なるとこちらの反応を伺う。中学生は興味を示さない。これは実は、やり方を工夫すればどうにかなるものではない。国際的な研究もようやく進んできたが、生き物に激しく興味を示し反応することを学ぶのは、どうも10歳くらいまでに極限されているようで、中

学生だと終わっている。この時時に学んでいない子は、大きくなっても興味を示さないことが見られる。小学校で徹底的に取り組んだ方が効果があると思う。

それから、企業の場合はおそらく植栽にもものすごくお金をかけていると思うが、ビオトープの場合は野生植物なので、植栽にかかる経費が減り、1/10になることもある。時代も激しく変化してきているので、少しそういった視点からも検討して見ると良いと思う。(岸委員長)

- ・昨年度「水と緑の探検隊」に参加させていただき、トキワツユクサ等の除去作業にも参加した。せっかく良いことをしているので、事務局にはもっと広めていただきたい。トキワツユクサは3ヶ月くらいビニール袋に入れておかないと死なない。完全に除去するには焼却が良いという話もあったが、道路公園センターとして、土嚢袋を持って行って回収し、それを環境事務所等に持ち込んで焼却処分するお手伝いなどが出来ると思う。

(大川委員)

- ・以前は中原区におり、今年高津区に赴任して、今回はじめて参加させて頂いている。月2〜3回以上私と同じ立場の担当課長が集まって話す機会がある。その中で高津区の取り組みに関してはよく話が出てくる。一番出てくるのはゴーヤーの話で、高津産のゴーヤーは食堂でカレーとして食べられるという話は、川崎市全区に伝わっている。今年は絶対食べるつもりでいるが、早く行かないと売り切れるということで、絶対に行きたいなと思っている。

今お話を伺った中で一点だけ気になる点がある。事務局から学校のプールのヤゴの話が出たが、一部の方からだが、学校のプールで子供のヤゴ取りについて放射能はどうなんだという意見を頂き、我々の方でも放射能を測るなどの対応をしている。ビオトープについても雨水を溜めているので、同じようなご意見を頂いたことがあり、皆さんも気になる部分だと思うので、我々で測ったところ大丈夫だったということを報告させていただく。(高倉委員)

- ・我が家の庭という小さな領域にもトキワツユクサがあり、それをなんとかしないといけないなと思っている。着任した際に、この事業は区の目玉事業ということで、職員も大変熱心に説明してくれた。私も一生懸命勉強して、皆さんを支えていかないといけないと改めて思っている。(武田委員)
- ・今回の水系や流域という話を聞くと、どうしても「整備」というイメージが強く、治水ということが頭から離れない。今回先生のお話を伺って、違う面での見方が出来、勉強になった。(飯塚委員(磯田委員の代理出席))
- ・私の部署では全市的な取り組みが多いので、このように地域に根ざしたものは詳しく知らなかった。今回紹介頂いた取り組みは、本当に身近なところで多様なものが展開しており、私は高津区民ではないが、自分の区など生活の中でも身近なところから環境関連の活動を見ていきたいと思っている。(田邊委員(金子委員の代理出席))
- ・私も初めて参加したが、いい勉強になった。Jリーグのホームゲームのときはいつもイベントを実施しており、6月23日には富士通(株)様と一緒に「ヤゴ救出作戦」というイ



ベントを予定している。これは、この間スタッフとボランティアでプールを清掃した際に幼児用のプールに移しておいたヤゴの生態系を、公募した子供たちと一緒に観察するというイベントだ。私もこの間はじめてオニヤンマのヤゴを見て、その大きさに驚いた。こういうところから今日お話頂いたような自然の体系というのが見えてくるのだなと思っている。フロンターレでもこういった活動を上手く取り入れ、「エコシティたかつ」とも一緒に取り組んでいければと思っている。(恋塚委員)

- ・今日が第1回推進会議で次の会議は2月までない。希望としては、委員の皆様からも意欲的な発言があった中で、事務局が決めたことに全部のっかっていくのではなく、間に1回くらい我々だけでも推進出来るような会議を持ちたいと思っている。

それからもう一つ、6月13日にエコバスを使って区内の課題がある箇所を多摩川の低いところから久末の高いところまで見て回るツアーを予定している。久末にある給水塔が取り壊されるということだが、区の風景の中でシンボリックなものなので、私たちとしては、活用の提案が出来ないかと思っている。何か良いアイデアがあったら教えて欲しい。(伊中委員)

- ・今日はセンターで発行しているニュースを持って来たが、下のほうに雨水貯留槽の設置助成金という項目がある。昨年からはまったがものだが、家の中で流域をつくることにもつながると思うので、ご検討いただきたい。(竹井委員)

#### (5) エコ・エネライフコンクールについて

資料6「エコ・エネライフコンクール関連資料」を用いて、事務局(地域振興課鈴木課長)より説明。エコ・エネライフコンクールの審査員として、「エコシティたかつ」推進会議から、岸(秀子)委員と横山委員が選出された。

## 7 まとめ

### 岸委員長よりまとめ

資料5にあるように、学校流域プロジェクトやエコ企業調査プロジェクトは、膨らみが出てきたように思う。たかつの自然の賑わいプロジェクトでは、トキワツユクサのおかげかもしれないが、皆の気持ちが足元に向いてきた。事務局でも新しい実験場所を見つけてもらえるようなので期待している。

(以上)

## 第1回「エコシティたかつ」推進会議 次第

日時：平成24年6月5日（火） 15時から

場所：高津区役所 第1会議室

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 区長あいさつ
- 4 委員自己紹介
- 5 委員長・副委員長選出
- 6 議事（質疑応答含む）
  - (1) 「エコシティたかつ」推進会議について
  - (2) 適応策及び流域思考について
  - (3) 2011年度の取組みについて
  - (4) 2012年度推進事業の進め方について
  - (5) エコ・エネライフコンクールについて
- 7 まとめ

- |     |                   |                   |
|-----|-------------------|-------------------|
| 資料1 | 「エコシティたかつ」推進方針    |                   |
| 資料2 | 「エコシティたかつ」推進事業    | 2011年度概要版         |
| 資料3 | 「エコシティたかつ」推進事業    | 2011年度事業振り返りPP    |
| 資料4 | 「エコシティたかつ」推進事業    | プロジェクト展開スケジュール（案） |
| 資料5 | 「エコシティたかつ」推進事業    | 2012年度スケジュール（案）   |
| 資料6 | エコ・エネライフコンクール関連資料 |                   |
| 資料7 | 「エコシティたかつ」推進会議    | 委員名簿              |
| 資料8 | 「エコシティたかつ」推進会議    | 設置要綱              |

【資料1】

…わたしと地球をつなぐ街…

# エコシティたかつ

**みんなで進めよう！「エコシティたかつ」**

「エコシティたかつ」は、高津区で生活し、学び、働き、活動する私たちが、それぞれの立場でできることを行うことにより、はじめて進めることができます。また、それぞれのアクションが相互に響きあい、支え合うような取り組みをともに進めることで、大きな推進力となります。

**推進方針**

地球環境危機の時代に対応した、自然の恵みとともにある持続可能な循環型都市構造の再生と創造

100年後のたかつのまちのために

**プロジェクトの展開について**

「中長期的なプロジェクトの案」は、おおむね2年前のはじめのアクションである、12のプロジェクトを基盤に、より中長期的な視点に立つて「エコシティたかつ」を推進するために整理したものです。

**中期的なプロジェクトの案** おおむね3～5年後

- 小さな循環・生ごみリサイクルシステムの構築
- 行政レベルでの循環マテリアルの実践的な取組
- 円筒分水、かすみ袋を活かした「緑の回廊」づくりの推進
- 複合型近距離マップ（ハードマップ）の協働作成
- 多摩川流域の緑の保全・回復・育成を目指した市民協会の取組
- 取組「たかつ地域水循環計画」の検討
- 取組「たかつ自然の恵みづくり計画」の検討
- 水の循環に基づく還元水システムの作成

**これらの検討課題**

- 自然共生型都市再生の推進に向けた区としての総合行政の展開
- 都市心豊かの取組を活かしたまちづくりの推進
- 環境負荷の小さい地域交通政策の検討
- 資源活動・環境資源の保全に関する新たな資金制度創設の取組
- 中長期的な視点からのまちのあり方に関する検討
- 環境的視点からの区役所事業の機動的展開

**連絡先：川崎市高津区役所地域振興課 企画課**  
 電話：044-861-3134 / FAX：044-861-3103  
 メールアドレス：e7@eco-city-kawasaki.jp  
 ホームページ：  
[http://www.ecocitykawasaki.jp/e7/e7main/eco\\_city/index.html](http://www.ecocitykawasaki.jp/e7/e7main/eco_city/index.html)  
 高津区所ホームページ下部にリンクボタンがあります。  
 「エコシティたかつ」

**低炭素・省資源社会の実現**

私たち一人ひとりが身近なアクションをおこし、地域/地球の二酸化炭素の削減につなげ、資源を有効に活用します

**自然共生型都市再生の推進**

丘陵などランドスケープを重視した、生態(いのち)の恵み豊かな自然共生型の都市再生を地域から推進します

**地域に即した防災まちづくりの推進**

深刻化する局地的な豪雨や洪水、濁水に対し、流域の水循環に即した「水災害適応型都市」づくりを推進します

（エコシティたかつ）推進事務局

**基本的な考え方**

この5つの考え方を基本に、目標を達成するため様々なプロジェクトを展開しています。

- 1 エコだけじゃ、エコは進まない！  
環境的・社会的・経済的持続可能性の実現
- 2 大地の“でこぼこ”を考えたプランニング  
地域の地形特性に合わせた事業推進
- 3 まちのみんなで進めよう！  
市民・企業・学校・行政の協働による推進と担い手の育成
- 4 すべての事業をエコから考える  
区の本事業事業の推進視点からの取組と総合的展開
- 5 強みを活かして取り組もう  
資源の有効活用とリーディングプロジェクトによる効果的取組

**はじめのアクション 12のプロジェクト**

リーディングプロジェクト：1  
地図による地域環境資源の共有化の促進  
丘陵地や低地、川など、ひとつひとつの“でこぼこ”した地形を地図におとし、「エコシティたかつ」推進のためのベースマップを作ります。

リーディングプロジェクト：2  
学校流域プロジェクト  
学校にビオトープ(池など)を作ったり、降った雨を花壇の水やり再利用したりします。子どもたちが身近に集まる生き物や水の循環に触れることのできる場所になります。久地小、西郷ヶ谷小ではこのプロジェクトが始まっています。

リーディングプロジェクト：3  
区役所の緑化等、環境技術導入によるエコシティ化の推進  
高津区役所は、地域のモデル事業者として、環境にやさしい技術を実際に行っていることのできる建物づくりを進めています。

リーディングプロジェクト：4  
緑のカーテン事業の展開  
家庭や学校、企業などに緑のカーテンを広げる“緑のカーテン大作戦”プロジェクトを2008年度から進めています。まちは緑を増やし、夏の高温を下げるのに役立ちます。

リーディングプロジェクト：5  
エコ・エナライフコンクールなど普及啓発イベントの実施  
“エコ”なエネルギーを使ったり、リサイクルを心がけたり…一人ひとりのアクションが大切であることを広め、応援するイベントを開催します。

リーディングプロジェクト：6  
橋地区の農的資源を活かしたまちづくりの推進  
貴重な緑地や農地、自から続く農業の営みなどを活かしたまちづくりを進めます。農家と都市部の区民の交流を促める機会づくりや、特産品などの情報発信を行います。

その他の6プロジェクト

- 「水と緑でつなぐ歴史街道花街道」(緑化推進重点地区計画)の推進
- 雨水利用の促進
- 再生可能エネルギーの利用促進
- 「まちなか油田プロジェクト」の推進に向けた調査・研究
- エコ企業調査プロジェクト
- 「エコシティたかつ」推進のための体制づくり

高津区役所内地域子育て支援センターなどで無料体験のイベントも開催しています。詳しくは、「かわさきかえるプロジェクト」のホームページを参照してください。

【資料2】



…わたしと地球をつなぐ街…

# エコシティたかつ

### エコ企業調査プロジェクト

環境に配慮した取組みを積極的にしている企業・事業所等を市民協働で調査及び情報共有し、ホームページ等で紹介し、企業の現場への取組みのインセンティブとし、企業とのネットワークづくりに向けプロジェクトです。

平成23年度は、BDF（バイオディーゼルの）回るエコバスツアーとして、株式会社新川博製作所、株式会社朝日プリンテック、川崎国際環境技術開発2012を視察しました。



### 普及啓発、イベント

- たかつ節電大作戦2011  
東日本大震災後の電力不足を踏まえ、区役所ぐるみで節電にチャレンジしました。
- たかつエコ・エナライフコンクール2011  
高津区民会連の協力で開催し、消費電力に関する取組みや緑のカーテンの取組みを表彰しました。
- 川崎国際環境技術開発2012  
区役所内の若手職員を中心として「高津区ワークショップ推進プロジェクト」が中心となり展示内容の企画等を行いました。



## 推進事業 2011年度

基本理念  
地球環境危機の時代に対応した、自然の恵いとともにある持続可能な循環型都市構造の再生と創造  
100年後のたかつのまちのために

「エコシティたかつ」の基本目標

#### 低炭素・省資源社会の実現

私たち一人ひとりが身近なアクションをおこし、地域・地球の二酸化炭素の削減につなげ、資源を有効に活用します

#### 自然の恵い・生物多様性

### 自然共生型都市再生の推進

丘陵などランドスケープを重視した、生命（いのち）の恵い豊かな自然共生型の都市再生を地域から推進します

#### 適応策

### 地域に即した防災まちづくりの推進

深刻化する局地的な豪雨や洪水、濁水に対し、流域の水循環に即した「水災害適応型都市」づくりを推進します

「流域」とは、降った雨が集まる、大地の範囲・領域のことです。



自然の恵い・生物多様性とは、池や湿地、森など多様な生態系に、たくさんの生きものが相互に関連しながら生息している状態のことです。



### みんなで進めよう！「エコシティたかつ」

「エコシティたかつ」は、高津区で生活し、学び、働き、活動する私たちが、それぞれの立場でできることを行うことによって、進めることができます。一人ひとりの行動が相互に響きあい、支え合うことで、大きな推進力が得られます。

「エコシティたかつ」の各プロジェクトでは、支援ボランティア、参加者、協力者の募集を随時おこなっています。メールアドレスをご登録いただいた方には、イベント情報やボランティア情報などをお知らせします。

一緒に「エコシティたかつ」の活動を進めませんか。詳しくは右記の連絡先にお問い合わせください。

連絡先：川崎市高津区役所 企画課 / 地域振興課  
電話：044-861-3131 / FAX：044-861-3103  
メールアドレス：67@kikaku@city.kawasaki.jp  
67tsin@city.kawasaki.jp

### 「エコシティたかつ」協賛・協力企業

アサヒ飲料、アサヒビール、山崎マシナ、NECインフラシステム、エコーパワー、株式会社エコー、東洋工業、システムインテグレーション、山崎製パン、新川博製作所、地域環境建設会社、日本化学工業、あそくま新都市、株式会社、東毛スワール、(株)エコー



## 2011年度のプロジェクト報告

2009年度の推進事業の開始から3年目にあたる2011年度より中期的プロジェクトとして展開している取組みを紹介します。

### 学校流域プロジェクト

学校にビオトープ(池や草原、森など)や雨水利用施設を整備し、生きものや水循環について子どもたちが学び場を作るプロジェクトです。

- ビオトープ整備と環境学習支援  
2009、2010年度で6校の整備をし、2011年度は、さらに7校の整備を進め、区内の小中学校15校中13校の整備を終えました。
- 区内の小中学校で環境学習を実施しました。
- 小学校教職員向け研修会の実施  
プロジェクトの担い手となる小学校教職員へ、「エコシティたかつ」の理解を促すため、川崎市理科研究会(中部地区)と連携し、児童への現場学習を体験する研修を開催しました。



### 区役所の緑化等、環境技術導入によるインシティブ化の推進

- 遮熱塗装  
照り返しの強い駐車場に遮熱塗装を施工しました。
- 屋上の緑のカーテンと雨水タンク  
緑のカーテンを既存の全フロアに拡大しました。
- 緑のカーテン事業の展開  
区役所や機出所、道路公園センターで育てたゴーヤーを区役所食堂に提供しました。
- クールミストの導入  
区役所正面玄関、高津スポーツセンターに各1台設置しました。
- エコシティホールツアーの開催  
ガイドがわかりやすく解説します。  
ご希望の方は、ぜひご参加ください。



### 「たかつの自然の恵いづくり」事業

水・緑・生きもの調査(外来植物や外来生きもの探しも含む)を行い、さまざまな活動を通して、地球温暖化適応策・生物多様性保全への貢献を市民協働で行うプロジェクトです。

- 高津区市民健康の森(たかはなふれあいの森)を舞台として調査と作業をモデル実施  
たかはなふれあいの森の谷戸の自然の状態を確認しました。

植生の維持のため、雑木林に差し込む光を遮るアオヤシロタネの状況の把握や、要注視外来に指定されているトキワツユクサの観察を行いました。



### 産学官連携による共同研究

- スチロクを用いた屋上緑化による断熱効果の検証  
株式会社スワール・東京農業大学  
- 高津区役所の連携により実施



### 橋地区の農的資源を活かしたまちづくりの推進

- ファーマーズマーケット(高津 さんの市)の開催
- 農業体験、授業イベントの実施
- 農産物、特産品の紹介販売を実施
- 農産物販売所マップを作成



### ヒートアイランド調査プロジェクト

- ヒートアイランドマップの発行  
平成21～22年度に区民・大学・企業・行政との連携のもと、街の隅々まで歩き、幸いた軌跡とその場所の気温を計測・記録した調査結果をマップにまとめて紹介しました。





### たかつの自然の賑わいづくりプロジェクト


★小流域ごとに環境資源を確認し、さまざまな活動を通して、保水力・土砂防災力の高い流域づくりに貢献する。  
**＝保水貢献＝地球温暖化緩和策貢献**

★小流域ごとに環境資源を確認し、さまざまな活動を通して自然の賑わい(＝生物多様性)の回復をめざす  
**＝生物多様性保全貢献**

※ 小流域ごとの工夫で、足もとから自然の賑わいとともにある持続可能な高津をめざす

### エコシティたかつ

場 所: 高津区市民健康の森(たちばなふれあいの森)  
 調査日: 1月12日(木)  
 ●雑木林の植生  
 ●エノキの落ち葉の中で越冬する生き物  
 ●マーキング作業  
 (トキワツユキサ、シロダモ、アオキ)  
 作業日: 1月26日(木)  
 ●トキワツユキサの駆除



### エコシティホール化プロジェクト



### エコシティたかつ

★高津区役所庁舎で 緑化や環境技術導入などを進め、庁舎を環境展示場としていく取組です



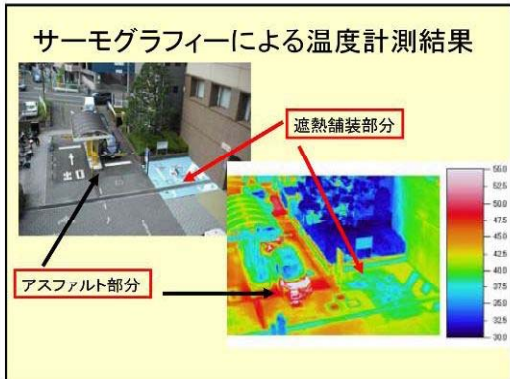
### 遮熱塗装

照り返しの強い駐車場に遮熱塗装を施しました



遮熱舗装部分

### サーモグラフィーによる温度計測結果



遮熱舗装部分

アスファルト部分



**★緑のカーテン事業の展開**  
 そして、区役所や橋出張所、道路公園センターで育てたゴーヤーを、区役所食堂で提供！  
 区役所産ゴーヤーランチ、区民の皆さんにも御馴染みになってきました（例年8月下旬～9月中旬に実施）

**★クールミストの導入**  
 区役所正面玄関、高津スポーツセンターに各1台設置（7・8月）

太陽光発電による電力を使用

**産学官連携による共同研究**

エコシティ たかつが ーわたりと地球をつなぐー

(株)モスワールド・東京農業大学・高津区役所  
 ↓ 連携  
 「コケ緑化の省エネ効果検証」  
 道路公園センタープレハブ倉庫

**ヒートアイランド調査プロジェクト**

エコシティ たかつ —わたしと地球をつなぐ—

結果報告会の実施及びヒートアイランドマップの発行

平成21～22年度に調査実施



エコ企業調査プロジェクト

★平成23年度テーマ

～区内企業の取組から最先端の環境技術をたどる～



平成24年2月10日(金)

◆BDFで回るエコバスツアー

(株)新川崎製作所 (株)朝日プリンテック 川崎国際環境技術展 2012

新聞製作工程を見学 歓迎



「エコシティたかつ」推進フォーラム

平成24年2月26日(日)

高津区役所 5階 会議室



エコシティ たかつ —わたしと地球をつなぐ—

プログラム

【第1部】

- 「たかつエコ・エネライフコンクール2011」表彰式
- 基調講演「NECインフロンティアの取組み」

【エコ落語】喜楽亭 笑吉 (演目:道具屋)

【第2部】「エコシティたかつ」推進フォーラム

- 「エコシティたかつ」推進事業 2011年度実施報告
- パネルディスカッション

「高津区にあるビオトープから流域の自然の賑わいを」



各種啓発、イベント





### ★たかつ節電大作戦2011

東日本大震災後の電力不足も踏まえ、区役所総ぐるみで節電にチャレンジ!



大作戦キックオフイベント／職員による“クールビズ”のファッションショーの1コマ  
キラリ★たかつ大使・ヴァンブ将軍も大活躍

### ★川崎国際環境技術展2012への出展



◆平成22年度に続き、2度目

◆区役所内、若手職員を中心とした「高津区タウンセールス推進プロジェクト」のメンバーが企画運営



【資料 4】

資料 4

eco-city  
takatsu

「エコシティたかつ」推進事業 プロジェクト展開スケジュール

短期の「12のプロジェクト」 2009～2010

リーディングプロジェクト

- 地図による地域環境資源の共有化の促進  
水系や流域等のランドスケープを整理し、地域資源を入れたベースマップの作成に市民協働で取り組む。また、高津区ヒートアイランドプロジェクトとして、区民参加のヒートアイランド調査を実施した。
- エコシティホール化の推進  
庁舎を環境展示場「エコシティホール」とし、来庁者への環境教育の場とする。高津区役所庁舎屋上に100Wの太陽発電システムを設置し、7月1日に記念セレモニーを実施した。
- 緑のカーテン事業の展開  
「緑のカーテン」などの環境にやさしい活動の普及啓発・拡大のためコンクール等を実施した。
- 各種普及啓発イベントの実施  
水との共生をテーマとした「全国内閣分水サミット2011inたかつ」を、全市展開する二ヶ領用水400年記念事業と連携して実施した。
- 学校流域プロジェクト  
学校を、地域のモデル基地と位置づけ環境学習を実施する。2009年度までの4校に加え、2010年度は、新規2校で事業を実施した。
- 橋地区の農的資源を活かしたまちづくり  
橋地区の地域資源を活かしたまちづくりに取り組む。

その他のプロジェクト

- 「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」の推進  
溝口駅周辺市街地の都市緑化や良好な緑の景観づくりを進める。2010年度は、キラリテック付近の街路樹等を整備した。
- 雨水利用の促進  
雨水利用促進のため、雨水タンクのモニター3組とともに、一本道のモニター活動及びアンケート調査を実施した。また、学校流域プロジェクトとも連携して取り組んだ。
- 再生可能エネルギーの利用促進  
高津区役所庁舎屋上に100Wの太陽光パネルを設置し、設置には、エコシティホールツアーにより、区民への普及啓発活動を推進する。
- 「まちなか油田プロジェクト」の調査・研究  
市民協働による区内資源循環の側面的支援を行った。
- エコ企業調査プロジェクト  
区内企業、商店街を訪問し、企業と市民等のネットワークづくりに向けた取組を進める。
- 「エコシティたかつ」推進のための体制づくり  
多様な主体の参加、連携と調整や効果的な情報発信等を行う推進体制づくり。

中期的なプロジェクトの案 2011～2013(第3期実行計画期間)

高津区全域での取組

- 各種普及啓発活動の推進 (推進会議及び推進フォーラムの開催・運営)  
今日的な課題に対し、区民向けの各種普及啓発活動を、区民協働(市民・事業者・学校)で実施し、その中で「地球温暖化防止活動推進センター」等との連携を模索する。  
○ 「エコシティたかつ」推進フォーラムを開催する。  
○ エコ・エネライフコンクールの実施。  
○ 市民主体の各種プロジェクト等の側面的な支援を実施する。
- 行政区レベルでの環境マネジメントの実践的な取組  
区における全事業事業をエコの観点から見直し、総合的に展開する。
- 橋地区の農的資源を活かしたまちづくりの推進  
橋地区の地域資源を活かしたまちづくりに取り組む。

小流域単位での取組


- 「たかつの自然の賑わいづくり」事業  
水系や流域等のランドスケープや生物多様性の視点を踏まえ、区内を流れている河川の小流域を単位として水・緑・生きもの調査(外来植物や外来生き物探しを含む)を市民協働で行い、さまざまな活動を通して、保水力・土砂防災力の高い流域づくりへの貢献及び自然の賑わいの回復を目指す。  
○ 「たかつ水と緑の探検隊調査」を実施し、温暖化適応的な改善策を部分的・段階的に進めていく。調査結果は、「(仮)緑地カルテ」としてまとめていく。
- 内閣分水、かずみ堤を活かした「緑の回廊」づくりの推進  
区の地域資源である内閣分水やかずみ堤の活用等を進めるとともに、二ヶ領用水から多摩川へ通じる緑の回廊(コリドー)づくりに区協働で取り組む。

スポット単位での取組

- 学校流域プロジェクト  
学校を、健全な水循環と生きもの賑わいを再生し支える地域のモデル基地と位置づけ、地域と密着した環境学習を実施する。現在13校(久本、高津、桜ヶ谷、西郷ヶ谷、南原、久地、下作延、橋、東高津、久末、坂戸、新作、末長)整備実施済。平成24年度、1校(上作延)整備予定。  
※子母口小は2014年度以降の改築工事終了後に整備予定。  
○ 学校ビオトープ(池、林等)の整備支援及び定期的な環境学習支援を行う。  
○ 雨水利用の促進等のモデル的な取組について検討・調整していく。  
○ 学校ビオトープを活用した環境学習の指導・育成として、教職員向けの学習会等を開催する。(年2回程度)  
○ 学習支援を支えるボランティア・スタッフ等の育成を検討する。
- エコシティホール化の推進  
区役所庁舎を環境展示場「エコシティホール」として活用した環境啓発を実施する。  
○ 「エコシティホールツアー」により、見学者への案内を通して、環境啓発を行う。  
○ 経済労働局「かわさき環境ショーウィンドウ・モデル事業2011」との連携し、太陽電池・蓄電バッテリー及びLED照明を設置する。  
○ 民間事業者との共同実験を実施する。「ウレタン基材による屋上緑化生育実験」

長期的なプロジェクト案 2014～2018

- 自然環境・地域環境に配慮した新たなエコ・コミュニティの検討
- 生物多様性の視点によるまちづくりの検討
- 小流域単位の健全な水循環の推進



これからの検討課題

- 自然共生都市再生の推進に向けた区としての総合行政の展開
- 都市の農的資源を活かしたまちづくりの推進
- 環境負荷の小さい地域交通政策の検討
- 環境活動・環境資源の保全に関する新たな資金支援制度の創出
- 中長期的な視点からのまちのあり方に関する検討
- 環境視点からの区役所事業の横断的展開

【資料 5】

資料 5

「エコシティたかつ」推進事業 2012年度スケジュール(案)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高津区全域での取組		●委員の募集(5/1～5/22) ●選考(下旬)	●第1回推進会議						●推進フォーラム		●第2回推進会議	
高津区全域での取組			●8/16 講習会			← 募集(8/1～9/28) →	●審査	●表彰式				
高津区全域での取組		●事業評価書への計画の記載					事業実施					●事業評価書の取組結果の記載
高津区全域での取組		●年間計画策定中 ●第1回推進会議 6月										
小流域単位での取組						●実施内容等の策定 ●参加者の募集		●調査	●作業			
小流域単位での取組	●4/17 新作小学習支援:池	●5/7 末長小学習支援:池	●6/13 久地小学習支援:池 ●6/14 南原小学習支援:池 ●6/20 公開授業 南原小:池									
スポット単位での取組						●実施内容等の策定 ●参加者の募集		●実施				
スポット単位での取組												
スポット単位での取組												

たかつエコ・エネライフコンクール2012事業概要

■募集部門■

1. 「緑のカーテン（個人・ファミリー）部門」
2. 「緑のカーテン（団体・事業者）部門」
3. 「エコレシピ部門」

■募集対象者■

区内在住・在勤・在学の方、または区内で活動するグループ、事業者

■募集期間■

平成24年8月1日（水）から平成24年9月28日（金）

■審査基準■

「緑のカーテン部門」については、ゴーヤの育成状況だけでなく、実践にあたり創意工夫した点や持続性、地域コミュニティの育成に役立てたなどを総合的に審査する。

「エコレシピ部門」については、エコをテーマとしたレシピとなっているか、また調理方法についても環境に配慮した点があるかどうかを審査する。

■審査委員■

- ・「エコシティたかつ」推進会議委員・・・・・・・・・・ 2名
- ・食品関連団体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- ・高津区区民会議委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- ・地元企業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- ・行政・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名

■受賞枠■

- ・最優秀賞 各部門1点
- ・優秀賞 各部門1点
- ・特別賞 各部門若干数

■表彰式■

平成24年11月11日（日）

## たかつエコ・エネライフコンクール2012実施要領

(趣旨)

第1条 「たかつエコ・エネライフコンクール」は、環境に関する意識の醸成及び行動の促進を図るため、個人及び家族、団体並びに事業者において、他の模範となる優れた取り組みを表彰する。

(組織)

第2条 主催は、「エコシティたかつ」推進会議及び高津区役所とする。

2 審査委員会は、審査員長及び審査委員をもって組織する。

3 審査委員長は、審査委員の中から選出する。

4 審査委員は、「エコシティたかつ」推進会議委員2名、高津区区民会議委員、食品関連団体、地元企業及び行政関係者から各1名を充てる。

(募集部門)

第3条 「たかつエコ・エネライフコンクール」における募集部門は、「緑のカーテン(個人・ファミリー)部門」、「緑のカーテン(団体・事業者)部門」及び「エコレシピ部門」とする。

(募集内容)

第4条 「たかつエコ・エネライフコンクール」のうち「緑のカーテン(個人・ファミリー)部門」における募集内容は、区内における次に掲げる取り組みとする。

(1) 個人や家庭における「緑のカーテン」の取り組み

(2) 近所ぐるみの取り組みなど「緑のカーテン」を通じたコミュニティ活動

(3) 「緑のカーテン」をもっと「楽しむ」「広める」工夫

2 「たかつエコ・エネライフコンクール」のうち「緑のカーテン(団体・事業者)部門」における募集内容は、区内における次に掲げる取り組みとする。

(1) 会社やグループによる「緑のカーテン」の取り組み

(2) 地域ぐるみの取り組みなど「緑のカーテン」を通じたコミュニティ活動

(3) 「緑のカーテン」をもっと「楽しむ」「広める」工夫

3 「たかつエコ・エネライフコンクール」のうち「エコレシピ部門」における募集内容は、区内における次に掲げる取り組みとする。

(1) エコロジーをテーマにしたレシピの考案

(2) 地球環境に配慮した調理方法

(募集対象者)

第5条 「たかつエコ・エネライフコンクール」における募集対象者は区内在住・在勤・在学の方、または区内で活動する団体、事業者とする。

(募集方法)

第6条 募集対象者の中から、別に定める応募用紙により、各部門における取り組みについて募集する。

(募集期間)

第7条 募集期間は平成24年8月1日(水)から平成24年9月28日(金)までとする。

(審査及び表彰者の決定)

第8条 審査は、審査委員会により行う。

2 審査委員会は、環境問題に関する意識の醸成及び行動の促進を図るため、個人及び区民団体において、他の模範となる優れた取り組みを審査するものとする。

3 審査委員会は、別に定める審査基準表を基に審査を行う。

4 表彰者は審査委員会の総意及び審査委員長の指揮により決定する。

(審査日程)

第9条 審査は平成24年10月中に高津区役所にて審査委員会が行う。

(受賞枠)

第10条 「たかつエコ・エネライフコンクール」における受賞枠は次に掲げるものとする。

(1) 最優秀賞 各部門1点

(2) 優秀賞 各部門1点

(3) 特別賞 各部門若干数

(表彰式)

第11条 表彰式は平成24年11月11日(日)高津区役所にて行う。

(表彰式の公表等)

第12条 主催者は、表彰者の取り組みを積極的に公表するとともに、その活動等の普及に努めるものとする。

(その他)

第13条 この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

## 「エコシティたかつ」推進会議 委員名簿

氏 名	所 属	職 名
岸 由 二	慶應義塾大学経済学部	教 授
田 中 友 章	明治大学理工学部	准教授
竹 井 斎	川崎市地球温暖化防止活動推進センター	センター長
長 村 吉 洋	二ヶ領用水ウォッチング・フォーラム	副代表
山 田 利 雄	高津区市民健康の森を育てる会	相談役
伊 中 悦 子	高津区まちづくり協議会	運営委員
住 田 三 枝 子		公 募
田 中 艸 太 郎		公 募
山 口 茂 宣		公 募
横 山 滋		公 募
岸 秀 子	川崎市立小学校長会高津支部（梶ヶ谷小学校）	小学校長
鈴木 克彦	川崎市教育委員会 総合教育センター カリキュラムセンター	指導主事
酒 井 富 雄	NECインフロンティア株式会社(区内企業)	環境管理センター マネージャー
恋 塚 唯	株式会社川崎フロンターレ(区内企業)	集客プロモーション グループ 副グループ長
秋 元 和 彦	株式会社ミットヨ(区内企業)	総務2課課長
鈴木 和彦	川崎市新エネルギー振興協会(株式会社イズズ)	会 長
武 田 良 知	川崎市高津区役所	副区長
金子 浩美	川崎市環境局地球環境推進室 (国際環境施策推進・市民協働・再生可能エネルギー担当)	担当課長
磯 田 博 和	川崎市建設緑政局計画部企画課	課 長
高 倉 昭 彦	川崎市高津区役所こども支援室(学校・地域連携担当)	担当課長
大 川 弘	川崎市高津区役所道路公園センター(協働推進担当)	担当課長

(敬称略)

氏名	所属	職名
【事務局】		
八 木 亮 子	高津区役所まちづくり推進部企画課	課 長
佐 藤 園 子	高津区役所まちづくり推進部企画課	担当係長
久 保 拓 治	高津区役所まちづくり推進部企画課	職 員
田 島 薫	高津区役所まちづくり推進部企画課	職 員
鈴木 哲朗	高津区役所まちづくり推進部地域振興課	課 長
山 口 精 司	高津区役所まちづくり推進部地域振興課	課長補佐
菅 谷 理 美	高津区役所まちづくり推進部地域振興課	職 員
【コンサルタント】		
藤 枝 香 織	特定非営利活動法人 まちづくり情報センター かながわ	理事・事務局長
上 村 耕 平	特定非営利活動法人 まちづくり情報センター かながわ	事務局スタッフ

## 「エコシティたかつ」推進会議設置要綱

(目的及び設置)

第1条 高津区における環境まちづくりの取組を推進していくために、総合的な施策展開ができるよう、高津区内における各種の施策の方向性を明確にし、区民とともに協働で地球温暖化対策の取組を示す計画である「エコシティたかつ」推進方針を策定し、それを推進するために「エコシティたかつ」推進会議（以下「会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 会議の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 「エコシティたかつ」推進方針の策定に関すること。
- (2) 「エコシティたかつ」推進方針の実施に関すること。
- (3) その他環境まちづくりに関し必要と認められる事項。

(組織)

第3条 会議は、委員20人程度をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから区長が任命する。

- (1) 区民・区内事業者・区内学校関係者
- (2) 学識経験者
- (3) 市職員

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 再任は原則1回限りとする。
- 3 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 会議に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 委員長は、会議を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、委員長が招集し、会議の議長となる。

(部会)

第7条 第2条の所掌事務を分掌させる必要があるときは、会議に部会を置くことができる。

- 2 部会の運営について必要な事項は、委員長が別に定める。

(関係者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第9条 会議の庶務は、高津区役所企画課において処理する。

(委任)

第10条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成20年6月2日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。



## 「エコシティたかつ」推進会議 中間報告会 摘録

- 日 時：2012年11月9日（金） 14：50～16：00
- 場 所：高津区役所 5階第3会議室
- 出席者：竹井委員・長村委員・伊中委員・住田委員・山口委員・横山委員・酒井委員  
・武田委員
- 配布資料：資料1：エコ・エネライフコンクール関連資料  
資料2：「エコシティたかつ」推進事業 2012年度スケジュール  
資料3：「エコシティたかつ」推進事業フォーラムチラシ  
資料4：「エコシティたかつ」推進会議内における情報共有について（案）  
資料5：各委員からの資料  
参 考：川崎市かわさき市政だより掲載基準

### ■議事概要

#### 1 開会

進行役 企画課佐藤担当係長より開会宣言

#### 2 副区長挨拶

武田副区長より挨拶。

私も今回のエコ企業調査プロジェクトを楽しみにしていた。以前、大企業の工場を見学する機会があった。今回、見学した光州産業様は、しっかりと手順を踏むようにコンパクトに工場が作られていたことと、従業員の方が一人ひとりきちんと挨拶をされていたことが、印象的だった。

今日は、前回の6月の第1回推進会議の際に、年度途中で情報交換をする機会をというご提案を頂き、それを実現したものである。市民委員及び企業委員の皆さんの取り組みを情報交換する場としていきたいと思う。

限られた時間ではあるが、有意義な時間となるようご協力をお願いしたい。

#### 3 資料説明

企画課佐藤担当係長より説明

#### 4 議事

##### (1) 今年度の「エコシティたかつ」推進事業の進捗状況について

はじめに、エコ・エネライフコンクールについて、資料1「エコ・エネライフコンクール関連資料」を用いて、事務局（地域振興課鈴木課長）より説明。

今年度の「エコシティたかつ」推進事業の進捗状況について、パワーポイント資料を用いて、事務局（久保）より説明。

- ・質疑応答：なし

## (2) 情報交換【各委員】

①中間報告会に出席した市民委員・企業委員からそれぞれ活動の報告があった。

- ・毎年行っている東高津小学校への環境教育は、今年で10年目を迎えた。例年は1月、2月に行っているが、学校と調整して弊社（NEC フロンティア株式会社）の緑のカーテンが体験できる9月に3日間実施した。緑のカーテンの内側は歩けるようになっていたので、実際に中に入って頂いて、その効果を実感してもらう良い機会（環境教育）となったと思う。

直接の環境活動ではないが、川崎駅前花壇の植え替えに例年ボランティアとして参加している。今年は11月17日に開催されるので、また参加したいと思っている。

あとは、高津区の久末にある久末東特別緑地保存地区（久末ふれあいの森等）の緑地保存を川崎市と協定を結び、弊社で管理を行う動きが始まっている。社内的には、今年度中に計画を立て、来春以降に実際に緑地保全をする活動ができるのではないかと知っている。（酒井委員）

- ・地球環境温暖化防止活動推進センターでは、マンションや自治会等に向けて節電・省エネセミナーを実施させて頂き、これは、夏季（7,8,9月）と冬季（11,12,1月）に行っている。今年は夏が暑かったので電力の使用量は増えている。これから冬の時期の活動が始まるので、個人や団体でも取り組んで頂けるとありがたい。

この他、「うちエコ診断」ということで、各家庭でのガス、電気のエネルギーの使用状況から、削減の提案を実施している。また、毎月テーマ展示を実施しており、11月は「エコハウス」がテーマである。12月は「地球温暖化月間」なので、温暖化に関連した展示を検討しており、昨年同様区内の小学校の自由研究から6点ほど展示する予定だ。1月には、高津市民館と連携して、地球温暖化に関連した講座を検討している。検討の場には、地球温暖化推進委員で高津区内の方も数人参加している。（竹井委員）

- ・2005年6月に「かわさきかえるプロジェクト」は始まった。当初掲げた、①廃食油からバイオディーゼル燃料の製造、②家庭から排出される廃食油回収の請願を市議会に提出し採択されるという目標を、設立6年目の2011年に達成することができた。

今年は川崎市内7区全体での回収ポイントの設置を目標に掲げ、ようやく12月で目標達成となる。回収量は、昨年度は、年間7,800ℓ、今年度は、年間10,000ℓを目標に回収を行っている。廃食油の回収から市民参加が広がり、市民には、資源循環の魅力も感じてもらう機会となっている。廃食油は回収量の1.8倍の石鹼を作ること

ができ、バイオディーゼル燃料も植物由来の油脂なので、CO<sub>2</sub>削減に寄与している。今年度は発電機も使用することができ、利用価値が高い燃料だと思っている。

他区での活動になるが、多摩区では石鹸作りとキャンドルセミナーを区役所にて開催した。また、エコバスツアーでバイオマス発電所の見学を行った。宮前区では、リサイクル工場の見学、ナチュラルクリーニング講座などを行っている。(伊中委員)

- ・今年区政40周年、二ヶ領用水も完成して400年を迎えたので、それに関する記念イベントとして二ヶ領用水の清掃を市民と共同で行う活動を企画した。もう一点は、高津区民祭の際に子ども達にボートに乗って頂くこと、二ヶ領用水のボートくだりを行った。非常に好評で、ボートくだりは予定人数を大きく越える参加者があった。クリーンアップも適宜開催し、区民の方からも関心を寄せて頂いている。

二ヶ領用水ウォッチングフォーラムとしては以上で、先ほどもお話があったが、地球温暖化防止活動推進センターの委員であり、その活動として廃食油の回収を進めている。(長村委員)

- ・身近なところだが、自身が住んでいるマンションのゴミ対策に取り組んでいる。来年のゴミの収集回数が週2日に変更になることも受けて、回収の仕組みづくりを検討している。本日のエコ企業調査プロジェクトで光州産業の見学に参加して、ゴミ排出の大元となる場所がしっかりしないといけないと感じている。私が住んでいるマンションの1,100戸(約3,000人)の居住者にどうやってゴミの分別を伝えていくか、準備を始めている。(住田委員)

- ・まちづくり協議会で、今年目標に城法谷のビオトープの再生を掲げたが、管理している団体との調整が難航し、中断している。また、高津区民祭の打ち水に参加した。散水をすると涼やかな風が吹いてくるのを感じた。特に、路面の温度が10度以上上がったということに、驚いている。

今年は学校ビオトープの活動には、スケジュールが合わず参加できなかったが、学校ビオトープも整備されてきたので、今後参加できる機会があればと思っている。

それから個人的には、先ほどお話を聞いた、「家庭の夏のエコ宣言」に参加した。扇風機を多用し、冷房の使用を最小限に抑えた。また、部屋の電球をLEDに変更し、冷蔵庫も省エネのものに買い換えた。(山口委員)

- ・私は現在、高津区の溝口第二町会に住んでいるが、ここでは、先ほど住田委員の話にもあったゴミの問題に取り組んでいる。今年で3回目となるが、宮前生活環境事業所にバックアップして頂き、「ゴミの行方を訪ねるバスツアー」を町会単位で開催した。総勢24名の参加者があった。今年、堤根処理センターと川崎区水江町にある関東圏唯一の製紙会社で、ゼロ・エミッションを謳っているコアレックスの見学

をした。

堤根処理センターの見学では、初めて参加した町会の方からは、騒音が結構あるということ、手選別作業が行われていることに新鮮な驚きを感じたという感想があった。コアレックスでは、徹底した循環型の製造工程とトイレトペーパーの製造工程に多くの関心や共感の声があった。

この企画を開催した経緯として、来年以降のゴミ回収の変更に関して、生活の場の中でゴミについて関心を持ってもらうことがある。現在は、一番の課題として町会に加入していない世帯に対し、どう働きかけをしていくかということも考えている。(横山委員)

## ②エコ企業調査プロジェクトについて、次のような感想が挙げられた。

- ・今までのエコ企業調査プロジェクトでは、大企業のエコに対する取り組みを勉強させてもらったが、今回のような中小企業を取り上げたことは非常に面白かった。今回のように、会社の方針が社員に徹底され、地域に対しても敬意を払っている元気な中小企業は他にもたくさんあると思うので、是非発掘してもらいたい。(山口委員)
- ・ISO14001を中小企業でも取得しようと、普及率は上がってきている。光州産業はかなり早い段階から取得し、環境問題に取り組んできている実績があると思った。ISO14001の中には、間接的な側面として従業員の意識改革が盛り込まれている。この部分が大きな課題だと言われているが、光州産業では環境目標や環境宣言が社内に掲示されており、従業員一人ひとりがそれを暗記するまで繰り返し読み込んでいる点を知ることができて、ISO14001の基本的な考え方の実践ができていると感じた。(横山委員)

## ③各委員の活動報告を受けた質疑応答

- ・質問ではないが、先ほど話に挙げた来年度からのゴミの回収の件で、現在ゴミ対策等を進めている地域(例：プラスチックごみの分別を開始している南部等)では回収が3日から2日に減っても抵抗はないと思うが、そこまで対策が進んでいない地域では、かなりハードルが高いと思う。そこを上手くやっけていかないと大変なことになると思う。当然環境局の主導ではあるが、区としても何かしていく必要があるのではないか。(竹井委員)
- ・お金の問題、環境の問題、実際のゴミの量から考えて、私は、週2日の回収が適正だと思う。プラスチックや紙ゴミは減量できるが、問題は生ゴミの衛生面や臭いだ。そこを考えると、回収日の回数を議論するなら分かるが、その他の部分で3日の方が便利だからということをやっているのであれば、環境の部の方にはもう少し理解をして欲しいと思っている。

生ゴミの臭い等の衛生対策をして、各家庭で溜めて置く方法は実はあるので、ストック方法の面にもう少し問題の視点を移して欲しい。エコを考える視点として、買うときから考えるというものがある。必要がないなら包装紙やパックはスーパーに返せば良いと思っている。今回のエコ企業調査を見学しても感じたが、企業は排出責任を一生懸命取り組んでいるのにもかかわらず、各家庭ではきちんと対応できていない部分がある。そういった問題まで広げて考えてもらわないといけないと思っている。(住田委員)

- ・まだ、宮前生活環境事業所では、回収日の曜日の設定が決まっていない。現在は週2日回収するということが決まっている。町会ごとの説明会が進められても、場所によってはいつ来るのかが分からない状況だ。

私も住田委員の話のように、回収は週2日でも問題ないと思っている。問題となる生ゴミ関係の対策について、川崎市自身も基本方針を持っていないような感じがする。もう一点、川崎市のごみ減量市民会議というところで4年前から、ゴミ減量の取り組みを色々やってきているが、その動きが最近見えない。そういったところともう一度連携をし直して、市全体として環境問題への取り組みの啓発活動を進めていくようなことが必要ではないかと思っている。(横山委員)

- ・現在市で稼働している4つの焼却場を3つの体制にしないと、焼却場の耐用年数に限界が来ている。ダイオキシンの問題もあったが、結局は大半を焼却している。焼却すれば、いつどんな問題が出てくるか分からない。ゴミの減量とリサイクルの時代となってきているので、分別すればゴミは減量できるということをもっとやっていかないといけない。(住田委員)

### (3) その他

「エコシティたかつ」推進会議内での情報共有について、資料4「エコシティたかつ」推進会議内における状況共有について(案)を用いて、事務局(久保)より説明。

この提案に関して、次のような意見が挙がった。

- ・久保職員から個別に色々と情報を頂いているが、まとまって情報が載ってくるのは良いと思う。(住田委員)
- ・6月に最初に集まった際、次回に集まるのが2月だと意味がないという話が出ていた。私もそうだと思っていた。今回のようにエコ企業調査後の意見交換や、こういったメールマガジンでの情報共有というのは、良いことだと思う。(山口委員)

その他、高津区の区政40周年記念誌について、企画課佐藤担当係長より説明。

以上

## 平成24年度「エコシティたかつ」推進会議 中間報告会 次第

日時：平成24年11月9日（金） 14時30分から

場所：高津区役所 第3会議室

### 1 開会

### 2 議事（質疑応答含む）

- (1) 今年度の「エコシティたかつ」推進事業の進捗状況について【事務局】
- (2) 情報交換等【各委員】
- (3) その他

### 3 閉会

資料1 エコ・エネライフコンクール関連資料

資料2 「エコシティたかつ」推進事業 2012年度スケジュール

資料3 「エコシティたかつ」推進フォーラムチラシ

資料4 「エコシティたかつ」推進会議内における情報共有について（案）

資料5 各委員からの資料

参考 川崎市かわさき市政だより掲載基準

## 【資料 1】

資料 1-1

### 「たかつエコ・エネライフコンクール」の取り組みについて

エコシティたかつ推進方針に基づき、「身近にできるエコ活動」を合言葉に高津区民、および高津区内の事業者を対象に「緑のカーテン」や「エコロジーなレシピ」を募集するコンクールを実施。

一人ひとりが身近なところからアクションを起こすことにより、地域の二酸化炭素を削減し、低炭素・省資源社会の実現及び地球温暖化防止に対する興味の喚起を目的としている。

緑のカーテンの普及とコンクールへのエントリーを促すことを目的として、夏前に緑のカーテンづくり講習会を開催。今年も100名の参加者を得た。

#### 1 緑のカーテン講習会…6月16日（土）高津区役所、橘出張所 各50名の参加。

緑化センター職員による緑のカーテン作りの講習とゴーヤの苗のプレゼント。

#### 2 「たかつエコ・エネライフコンクール」の実施

独自のアイデアを活かした緑のカーテン作りに取り組んでいる区民、高津区在勤・在学者、区内事業者にエントリーを呼びかけ。

緑のカーテン…個人6名・6作品、事業者3団体・3作品

エコレシピ…個人9名・16作品、事業者1団体・1作品

10月22日（月）審査委員会、最優秀賞・優秀賞各3点、特別賞5点  
各賞の副賞（プレゼントと協賛者は別紙のとおり）

#### 3 「たかつエコ広場」の開催

11月11日（日）午後 区役所1階市民ホールにて開催

13:30～ 講演（緑のカーテン応援団・三ツ口氏）

14:30～ 「たかつエコ・エネライフコンクール」表彰式

15:00～ エコレシピ試食会（グリーンコンシューマー）

※開催時間中、「たちばな農のあるまちづくり」のコンセプトにより、橘地区で生産・収穫された野菜を販売（実費提供）。

## エコ・エネライフコンクール2012 協賛企業及び協賛品一覧

No.	協賛企業	協賛品
1	アサヒ飲料(株)	金のワンダ微糖 1 ケース
2	アサヒビール(株)	アサヒビール 2 ケース
3	NECインフロンティア(株)	LED電球 (昼白色・電球色) 2 エコバック 2
4	(株)フロンターレ	ユニフォーム 1 マフラータオル 1 巾着バック 1 タンブラー 1 そば 10
5	(株)ケイエスピー	ストラップ 20
6	(株)近藤工芸	デルタレイズパワー・ハンディタイプ 1 個 デルタレイズパワー・ステイタイプ 1 個 デルタレイズパワー・ブル 1 個
7	シップスレインワールド(株)	UVビーズ 1000個 UVビーズブレスレッド 20個 UVビーズ ストラップ 20個
8	(株)タウンニュース社	図書カード 1 万円分
9	日本理化学工業(株)	キットパスキッズ 30 個
10	みぞのくち新都市(株)	商品券 5000 円分
11	(株)みつや園	ゴーヤの栽培セット 2 つ ※苗はつきません
12	(株)モスワールド	アルファ米 3 つ
13	エリーパワー(株)	エコボールペン
14	JAセレサ川崎	足柄茶 25 缶入り 5 ケース
No.	協力企業	協力内容
1	城南信用金庫	ちらし配布などの協力



楽しく・おいしく

eco-city takatsu

高津区制40周年記念

# たかつエコ広場

11/11(日)  
13:30~16:00

会場/高津区役所1階(入場無料)  
来場者の方には記念品をプレゼントいたします★

ぐらすかわさきによる

**旬の野菜販売**

もあるよ!

NPO法人緑のカーテン応援団による講演

「仮設住宅×緑のカーテンプロジェクト」からみる緑のカーテンの力  
～ ミツロ 拓也氏 NPO法人緑のカーテン応援団・理事 ～

たかつエコ・エネライフコンクール2012表彰式

緑のカーテンにエコレシピ!みなさんのアイデアを披露します!

エコレシピ試食会

旬の野菜がエコになる?!エコレシピのワンポイントを伝授!  
～ グリーンコンシューマーグループ ～

主催 : 「エコシティたかつ」推進会議、高津区役所

協賛 : アサヒ飲料(株)、アサヒビール(株)、NECインフロンティア(株)、エリーパワー(株)、(株)フロンターレ、(株)ケイエスピー、(株)近藤工芸、JAセレサ川崎、シップスレインワールド(株)、(株)タウンニュース社、日本理化学工業(株)、みぞのくち新都市(株)、(株)みつや園、(株)モスワールド、※50音順

協力 : 高津区区民会議、城南信用金庫

お問い合わせ : 〒213-8570 高津区役所地域振興課 電話044-861-3144



【資料2】

「エコシティたかつ」推進事業 2012年度実施スケジュール												資料 2
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高津区 全域での 取組	「エコシティたかつ」推進会議及び推進フォーラムの実施		●5/1～5/22委員の募集 ●5/30 選考	●6/5 第1回推進会議				●11/9 中間報告会	●12/2 推進フォーラム			●3/18 第2回推進会議
	エコ・エナライフコンクール			●6/16 講習会		募集 (8/1～9/28)	●10/22 審査	●11/11 表彰式				
	行政レベルでの環境マネジメントの実践的な取組		●事業評価書への計画の記載				各事業実施					●事業評価書の取組結果の記載
	橋地区の農的資源を活かしたまちづくりの推進			●6/22 第1回推進会議	●7/29 区民寮にて「さんの市」出店	●8/19 交流イベント(種まき)	●9/29 交流イベント(植付け) ●9/6 第2回推進会議 ●9/23 さんの市		●11/4 親子料理教室 ●11/14 風景写真ツアー	●12/1 収穫祭 ●12/2 久未品評会ツアー	●1/7～11 写真展	
小流域 単位での 取組	学校流域プロジェクト(学習支援の実施)	●4/17 新作小①:池	●5/7 末長小:池	●6/13 久地小・ヤゴレスキコー ●6/14 南原小①:池 ●6/21 久本小:池 ●8/22 西郷ヶ谷小:池 ●6/14 南原小②:池	●7/2 東高津小①:池	●8/22 上作延小BT観察及び打合せ ●8/27 下作延小:池		●11/1 坂戸小①:池 ●11/16 梶ヶ谷小①:池			●2/4 末長小②:池 ●2/19 東高津小②:池 ●2/20 橋小:発表会 ●2/21 坂戸小②:池 ●2/28 久未小:池	●3/5 新作小②:池 ●3/15 梶ヶ谷小②:池(予定)
	「たかつの自然の賑わいづくり」事業 候補地(緑ヶ丘公園)					●公園事務所との調整 調査可能増所の選定		●11/5 事前調査			●2/23 探検隊実施	
スポ ット 単位での 取組	エコ企業調査プロジェクト				●実施内容等の策定 ●企業との調整 ●参加者の募集			●11/9 実施				
	エコシティホール化の推進 (常時:エコシティホールツアーの実施)											●4Fコケ緑化改修
	節電啓発				●7/29 打ち水大作戦							

# 「エコシティたかつ」 推進フォーラム

～たかつでつながる・生きものの輪と防災まちづくり～

平成24年 12月2日(日)  
13:30～15:30 (13:00開場)  
高津区役所 5階 第1会議室  
(申込み不要・参加費無料)

主催：「エコシティたかつ」推進会議、川崎市高津区役所

## 第1部

### 学校ビオトープ交流会

児童による区内の小学校にあるビオトープを活用した学習の発表

●発表校(予定)：梶ヶ谷小学校、末長小学校、高津小学校、橋小学校、久本小学校

講評：岸 由二 委員長  
「エコシティたかつ」推進会議  
慶應義塾大学経済学部 教授

## 第2部

### 講演：「東日本大震災からの 復興まちづくり」

大船渡市綾里地区の支援を中心に

饗庭 伸氏  
首都大学東京  
都市環境学部 准教授

▲会場地図  
高津区役所 5階 第1会議室  
〒213-8570 川崎市高津区下作延 2-8-1

お問い合わせ  
高津区役所企画課  
TEL：044-861-3131 FAX：044-861-3103  
Email：67kikaku@city.kawasaki.jp

「エコシティたかつ」推進会議内における情報共有について（案）

1 目的

各「エコシティたかつ」推進会議委員が日頃行っている取組み等の情報を共有化することを目的とする。

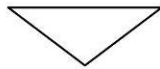
2 手法等

(1) 手法

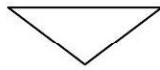
毎月、各委員から情報を募り、メールマガジン形式で決まった日に提供する。

(2) 流れ

毎月 25 日 各委員から情報を事務局が収集



内容等の審査（事務局）



翌月 1 日 情報提供

3 掲載基準

掲載基準は、「川崎市かわさき市政だより掲載基準」に準ずる。

川崎市かわさき市政だより掲載基準

1 目的

この掲載基準は、川崎市かわさき市政だより発行規則(昭和25年4月24日規則第7号)の規定に基づき、かわさき市政だよりの掲載基準を定めるものとする。

2 掲載事項

市民生活に関わりの深いもの、市民の関心が高いものを第一に考え、次の範囲で掲載する。

(1) 市版への掲載

- ア 市の主要施策やその成果
- イ 市の計画
- ウ 市の行事、催し、募集などのお知らせ
- エ 条例などの法令により、公表すべきもの。
- オ 市民生活の向上・安全やコミュニティーの醸成に資するもの。
- カ 「県のたより」と重複するものについては協議する。
- キ その他、市民・こども局長が認めるもの。

(2) 区版への掲載

- ア (1)ア～カの中で、特に区民またはその地域の住民を対象とするもの。
- イ 市版と重複するものについては協議する。
- ウ その他、区長が認めるもの。

3 掲載できない記事

原則として、次のような記事は掲載できない。

- (1) 問い合わせ先の担当課が不明確なもの。

- (2) 掲載する号に日程が合わないもの。
- (3) 対象者に直接通知するような、個別に対応できるもの。
- (4) 同一年にすでに掲載したもので、特段の理由がないもの。
- (5) 単に“〇〇週間です” “〇〇に注意しましょう”など画一的なもの。
- (6) その他、市民・こども局長が適当でないと認めるもの。

#### 4 外部記事の掲載

市民生活に必要な情報で公共性の高いものについては、担当課からの依頼により、次の範囲で掲載する。

- (1) 市の出資(捐)法人が実施・主催するもの。
- (2) 市が共催・後援するもので、担当課が窓口となり問い合わせに責任を持って対応できるもの。
- (3) 国や他自治体などからの依頼で、担当課が窓口となり問い合わせに責任を持って対応できるもの。

#### 5 市民からの投稿記事。

市民からの投稿記事取り扱いについては、次のとおりとする。

- (1) 投稿できる人は市内在住、在勤または在学の人とする。
- (2) 投稿記事の種類、期間、申込方法については別途定める。
- (3) 掲載できない記事

原則として、次のような記事は掲載できない。

- ア 営利や売名を目的とするもの及びその恐れのあるもの。
- イ 政治・宗教活動に関するもの及びその恐れのあるもの。
- ウ 著作権・肖像権を侵害するもの及びその恐れのあるもの。
- エ 連絡先が市外及び携帯電話など所在が不明確なもの。
- オ その他、市民・こども局長が適当でないと認めるもの。

附 則

この基準は、平成4年5月から施行する。

附 則

この基準は、平成6年5月から施行する。

附 則

この基準は、平成7年5月から施行する。

附 則

この基準は、平成8年5月から施行する。

附 則

この基準は、平成14年5月から施行する。

附 則

この基準は、平成20年4月から施行する。



## 第2回「エコシティたかつ」推進会議 摘録

■日 時：2013年3月18日（月） 13：30～15：00

■場 所：高津区役所 5階第1会議室

■出席者：岸（由二）委員長・竹井委員・山田委員・住田委員・田中（艸）委員・山口委員・横山委員・酒井委員・恋塚委員・鈴木（克彦）委員・武田委員・藤巻委員・北川委員・張戸委員・大川委員

■配布資料：資料1：たかつエコ・エネライフコンクール2012の取組みについて  
資料2：2012年度事業報告パワーポイント資料  
資料3：「エコシティたかつ」推進事業フォーラム開催結果  
資料4：「エコシティたかつ」推進事業フォーラム アンケート集計結果  
資料5：たかつエコ・エネライフコンクール2013（案）  
資料6：「エコシティたかつ」推進事業 プロジェクト展開スケジュール（案）  
資料7：「エコシティたかつ」推進会議 委員名簿

### ■議事概要

#### 1 開会

進行役 企画課佐藤係長より開会宣言。

#### 2 区長挨拶

秋岡高津区長より挨拶。

「エコシティたかつ」は事業が始まって4年目となる。今年度は、皆様のお力添えで各プロジェクトが着実に進む年になった。学校流域プロジェクトでは、区内の小中学校15校中の14校にビオトープを整備することができ、維持管理に勤めながら学習支援を展開している。たかつの自然の賑わいづくり事業では、市立緑ヶ丘霊園を舞台に自然観察や外来生物のトキワツユクサの駆除を本格的に実施することができた。エコ・エネライフコンクールやエコ企業調査プロジェクトも皆様のご協力できちんと開催している。

今後、委員の皆様はもちろんのこと区民の方々と一緒になって、引き続き各プロジェクトを進めながら環境意識の醸成を図り、「エコシティたかつ」の実現を目指していく。最後に、より良い地域づくりのために、そして100年後の高津のために引き続き皆様方のお力添えをお願いして本日の挨拶と代えたい。

#### 4 委員の挨拶

川崎市において、生物多様性を所管している環境局環境調整課 藤巻委員より挨拶。

ご紹介頂いたように、環境局の企画調整課にて、生物多様性などを扱っている。これからよろしくお願ひしたい。

## 5 議事

### (1) 2012 年度「エコシティたかつ」推進事業の報告

#### ア エコ・エネライフコンクール 2012

資料 1「たかつエコ・エネライフコンクール 2012 の取組みについて」を用いて、事務局（菅谷）より説明。

#### イ 2012 年度「エコシティたかつ」推進事業

資料 2「2012 年度事業報告パワーポイント」を用いて、事務局（久保）より説明。

質疑応答なし

### (2) 次年度の方向性について

#### ア エコ・エネライフコンクール 2013

資料 5「たかつエコ・エネライフコンクール 2013（案）」を用いて、事務局（菅谷）より説明。

#### イ 2012 年度「エコシティたかつ」推進事業

資料 6「「エコシティたかつ」推進事業 プロジェクト展開スケジュール（案）」を用いて事務局（八木課長）より説明。

出席委員より次のような質問があった。

- ・学校流域プロジェクトの部分で、学習支援を支えるボランティアとあるが、これは何か具体的なイメージはあるのか。（竹井委員）
- ・学校関係者と調整させて頂く中で、学校を取り巻く環境の変化により、学校へ入ることが難しくなっている。そこをクリアしていくにはどのような方策があるのかを相談しながら進めている状況だ。（事務局八木課長）
- ・今の質問と関連するかもしれないが、学校流域プロジェクトのところに教職員向けの研修会の開催とあるが昨年に中止となってしまった理由をもう一度お聞きしたい。  
それからビオトープを活かした学習会に至るまでの教職員の方々の色々な取り組み、苦労話があると想像されるが、教職員の方々はどのような問題点や課題を抱えているのかを知りたい。次年度で教職員向けの研修会を進めていく中で、学校ビオトープを維持管理していくにあたって、担当者を含めた学校側の課題があれば教えて頂きたい。（横山委員）
- ・今年度教職員向けの研修会が開催できなかった理由は台風の直撃にある。別の日程を組みたかったが、学校のスケジュールは非常にタイトであり、一度逃すと再調整が難しく、やむなく中止にした。  
今年 4 校の学校に集まっていたいて推進フォーラムを開催したが、ここに至るまでにまずは、ビオトープの日常的な維持管理や学習展開における区役所と学校の間を構

築してきたということがある。教職員の方も定期的な異動があり、我々の取組みを理解して頂いたところで、校長先生、教頭先生、理科の先生などが学校を離れてしまうこともある。また、代わって入った先生がスムーズにこの取組みをやっていけるかという、学校によって様々だ。そういう問題もあり、今年度は区役所内にある子ども支援室の担当課長等に全面的な協力をお願いして学校との調整を図ってきた。特に学校は早い時期で1年間の行事等が決まっており、途中でフォーラムの出席をお願いすると、気持ちがあっても、学校行事との兼ね合いで難しいという回答になってしまう。他区では学校流域プロジェクトのような取組みはなく、高津区ならではの取組みを浸透させていくことに苦勞をしている。なお、他区から異動してくる校長先生、教頭先生がいた場合には、丁寧に説明していくことが重要だと思い、取組んでいる状況だ。(事務局八木課長)

- ・関連して私の方でも少し補足すると、学校流域プロジェクトは、「学校ビオトープ」ではなく「学校流域」という言葉を使っている。これは学校を生き物の賑わい溢れる地域のビオトープとするだけでなく、健全な水循環の基地にするということが絡んでいる。

温暖化に対する対応には緩和策と適応策の2つがあるが、日本は如何に低炭素社会をつくるかという緩和策だけを進めてきた。ところが3.11以降、原発の問題もあり、緩和策はできなくなってしまった。海面上昇や豪雨に対応し、防災意識を持つという適応策は先進国では共通認識としてあるが、日本では政府の中で主題化していなかった。今ようやく適応策が主題化しつつあるのかもしれない。

また、高津区の取組みはそれらを全て先取りしており、学校に降った雨をそのまま川に流すのではなく、上手く溜めてビオトープや散水に利用している既にいくつかの学校では雨水を利用して、ビオトープの水循環を実現している。2013年以降、ビオトープでの雨水利用を周知徹底していることが主力となるだろうと思う。こうした取組みから雨水の利用は水循環の健全と関係があるのだということが少し前に出てくるのではないかと期待している。

さらに、たかつ自然の賑わいプロジェクトでは、特定外来生物あるいは、要注意外来生物を駆除する活動を主題として取り組んでいる。緑ヶ丘霊園の大規模な谷戸に足を踏み入れることができ、地元の学校の先生達にも参加して頂いた。このプロジェクトは生物多様性の保全回復と同時にそれが保水力向上、土砂災害の防災にセットで切り込めるという利点がある。上手く取り組むことにより、緑ヶ丘霊園だけで川崎市の生物多様性、適応策貢献のモデル地域にもなり得るだろう。(岸委員長)

### (3) 各委員からの年間活動の感想等について

出席した各委員から次のような感想・意見があった。

- ・今年度はあまりイベント等に参加できず残念だった。エコ企業調査プロジェクトで(株)光洲産業を見学し、周辺に配慮した環境配慮をしっかりとやっているなという印象を持った。次年度については、区役所とも色々と連携の相談をさせて頂いている。一つ気に

なった点として、プロジェクト展開スケジュール内の各種普及活動の推進の部分に「市民主体の各種プロジェクト等で側面的な支援を実施する」とあるが、これは私どもセンターとしても共通にミッションを持っている。中々どう支援していくのかとも難しいと思っている。地球温暖化防止活動推進センターという名前になっているが、環境問題についても一体的にやっていかないといけないと思っているので、長期的な視点で連携していければありがたいと思っている。

また、エコ・エネライフコンクールのところ、次年度は「緑のカーテン」、「雨水利用自慢」、「自然の風景写真」の募集となっているが、センターの方にも環境省から「緑のカーテン」を進めたいという話が来ており、単に広めるだけではなく、効果測定をやりたいと考えているので、そのモニター先としても連携していけたらと考えている。(竹井委員)

- ・たかつ水と緑の探検隊に参加させて頂いた。緑ヶ丘霊園内を歩き、流域を形成する窪地、手入れの行き届いた森、放置された状態の森を岸先生にご指導を頂きながら見学した。森をよく見ることにより、里山活動で今何をしないといけないのか、改めて理解することができた。当日頂いた資料が簡潔で明快で参考になった。また、遊水地の観察では水槽を用意して頂き、参加された小学生達も喜んでいたいと思う。(山田委員)
- ・今小学生という話があったが、地元の下作延小学校から先生も 8 名ほどご参加いただいた。自分の学校のすぐ近くにこんなに自然が多い場所があるなんて知らなかったという感想があったが、そういう広がりが出てきて良いと思う。(岸委員長)
- ・今年の春に川崎ごみを考える会が発展的解散をし、少し余裕が出てきたので今年は打ち水やエコ企業調査プロジェクト、推進フォーラムやたかつ水と緑の探検隊に参加した。ごみを考える会の中でも、ゴミ捨て場のことだけでなく、資源や環境のこともやってきたので、色々と参加した活動を周りにも伝えることができると考えている。たかつ水と緑の探検隊では、外来種の話があったので、園芸等に取組んでいる会に参加していることもあり、この話をしてみようと思う。それから、たかつ水と緑の探検隊の感想にも書いたが、マンション内にある木が大きくなっており、外来種の木（ニセアカシア）も自然に生えてきているので伐採したら良いと思っているが、まだ他の住民は外来種の駆除といったことは考えていないようだ。今回、岸先生に伺った話をもっと一般の人に伝えていくべきだと考えている。住民に、生物多様性の観点から外来種を駆除することの重要性を的確に伝えていく工夫を区役所にして頂けたらと思う。(住田委員)
- ・私は、ニセアカシアなどの外来種は、それが生えていることによって生物多様性がひっ迫しているなど緊急的な対応が必要のない限り、手を入れないでおくことを伝えている。様々な樹木を大事にしたいと言っている方々と、喧嘩をしないようにと考えている。そういう意味で言うとトキワツユクサはまだ、特定外来生物ではなく、持ち運んでも法律に抵触しない要注意外来生物ではあるが、速いスピードで広がっているため特定外来生物に指定した方が良く思っている。(岸委員長)

- ・今年度は、「エコシティたかつ」の事業にあまり参加できなかったが、次年度はもう少し参加していききたいと思っている。フロンターレの事務所で、緑のカーテンに取り組んでいたものの台風等の天候の影響で頂いていた苗が枯れてしまい、高津区役所から追加で頂いた苗でなんとか実施することができた。打ち水は、高津区だけでなく他区のものにも参加させて頂いている。

それから、昨年環境局と連携して「エコ暮らしこフェア」にもブースを出させて頂き、その評価もあり、スマートライフスタイル大賞を受賞した。Jリーグのクラブチームとしてできる地域における地球環境保全の取り組みをしていきたいと考えている。今年もエコ・エネライフコンクールに協力させて頂きたいと思っている。(恋塚委員)

- ・2011年度、2012年度とエコ・エネライフコンクールで審査員を務めさせて頂いた。2011年度は小学校や幼稚園の他、団体応募が多かったが、2012年度については先ほど事務局から報告のあったように3団体しか応募がなかった。結果として全ての団体に賞が出てしまうような状況だった。先ほど恋塚委員の方からも台風のお話があったが、「緑のカーテン」を始めたばかりのところ枯らしてしまい、成果が出なかったことが参加団体の少ない一つの要因と思う。しかし、「緑のカーテン」以外でも区民や区内の団体がより多く応募してもらえるような仕掛けづくりが必要と思う。2013年度のエコ・エネライフコンクールについて先ほど事務局からもご説明があったが、区内企業の一員として何かご協力できることがあれば、引き続き参加させて頂きたいと思っている。(酒井委員)
- ・先ほどから話題に出ているたかつ水と緑の探検隊に参加させて頂いた。日頃多摩川の河川敷をランニングしているが、多摩川も自然が豊かな流域と思っているが、外来植物という視点で見ると、色々なものがあると思っている。どういうものがあるかよく分からないが、その視点でも多摩川の流域に興味を持っている。

2つ目は、学校流域プロジェクトの成果かは分からないが、2、3日前に高津小学校に鶯が飛んできていた。世田谷の方で鶯が鳴いているのはよく聞いたが、こちらで聞くのは珍しいので、鳥の目から見ると環境が良くなってきたのかと嬉しい気持ちになっている。

3つ目は、私が所属している溝口第2町会では、高津区の支援で雨水利用のタンクを導入した。しかし、中々地域で雨水利用を考えるとノウハウも含めて難しいと思っている。先ほどの岸先生のお話にもあったように、学校では屋上に降った雨水をビオトープ等に利用する、あるいは各家庭では、日常的に打ち水や植物への利用することが考えられるが、自治会のような小さなまとまりで利用するというのは日常的な管理も含めてどのように普及させていけば良いのか悩んでいる。江戸時代のように防火施設があり、水桶があるようなイメージもあるが、どのように考えていけば雨水利用が普及するのかという課題を感じている。(横山副委員長)

- ・今の話を補足すると、実は雨水利用の前には雨水の保水浸透がある。健全な水循環というのは直ぐに雨水利用に行きがちだが、先ずそこに降った雨が直接的に川に流れ込まないようにすることだ。学校に降った雨が、校庭からすぐに出ないようにすることの一環

として池のビオトープがある。あくまで例え話ではあるが、各家庭の庭の場合には、穴を掘って、降った雨を少しでも浸透させることで効果があると考えている。電気を数分使わないだけで環境貢献と言っているのと同様に、庭に降った雨を一気に流さず、少し貯めるだけでも十分な適応策貢献になる。これは国際的には既知のもので、イギリスでは家を建てる際に、少し庭に凸凹をつくるだけで大きな効果が出ているので、「利用」とすぐに思わず、「貯める」ということが大切だ。(岸委員長)

- ・2012年度は区役所主催の行事に随分と参加させて頂いた。3年前にヤゴの救出作戦に参加させて頂いた頃と比較して14/15校にまで学校ビオトープが広がってきたという活発な動きに、大変喜ばしく思っている。近くの小学校のビオトープ等にボランティアで参加したいと思っているが、今後ボランティア等の育成を進める際には、是非一知識としての講習会を企画して頂きたい。

たかつ水と緑の探検隊に参加してトキワツユクサの除去作業をしたが、私が活動している久地特別緑地保全地区においても、アオキなどを伐採して臨床部に日が当たるようにしており、随分と効果が出ている。周囲を少し調べてみたところ、トキワツユクサが見つかり、地道に岸先生から教わった方法で駆除するしかないかなと思っている。

また、かすみ堤の話が最近に進んでないようであるが、円筒分水に向かっていく一つの回廊として、近くの町内会長等と連携して署名活動をやろうという話も出ている。歴史的な評価は分からないが、空地によって過密化を防いでいくことは防災にもつながるので、是非進めて頂きたいと思っている。(山口委員)

- ・市民活動としては、打ち水に参加した。また、CC川崎の温暖化コーナーで長村委員から依頼を受けて子ども向けに夏休み中の実験教室を開催した。また地形模型を使った子ども向けの教室も文化協会の方で開催した。今回は、高津区全域を3つに分けて作製し、川崎市国際環境技術展の方でも展示して頂いている。ぱっと見ると出来があまり良くないので、おいておくとリサイクルの品と間違えられてしまうが、よく見ると地形の状況がよく分かるようになっている。(田中(艸)委員)

- ・エコ企業調査プロジェクトの関係だが、高津区には3つの中小企業工業団体連合会有る。エコ企業と見る際に、先ほどの「緑のカーテン」のように中小企業の中で取り組みが広がることによって、そこで働いている従業員の方も地域活動に参加できるような機会があれば、広げることが必要ではないかと感じている。この話はCC川崎の会議の場でも発言してきた。中小企業団体連合会の中でも環境問題に中小企業として取り組んでいくという方針を持っているので、可能であればエコ企業調査プロジェクト等に、3つの工業団体連合会に働きかけるようなことも念頭に置いて取り組んでほしいと考えている。(横山副委員長)

各委員の発言を受けて、事務局から次のような回答があった。

- ・多くのご意見を頂いてありがたく思っている。先ずエコ・エネライフコンクールで来年度は雨水に着目することになり案を作成したが、これは元々CC川崎と来年度の打ち合わ

せをしている中のご提案頂いたものだ。CC 川崎とは今後ともお知恵を拝借することも含めて、連携していきたいと思っている。

たかつ水と緑の探検隊については、今年度初めて市立緑が丘霊園を対象とすることができた。山田委員からは資料や当日の準備などに対して優しいお言葉を頂いた。資料等については、今後とも分かりやすく作成していかないといけないなど改めて感じている。関連して、住田委員からは、外来種駆除の取り組みは良いことをやっているのだから、より多くの方に広めていかないといけないというお言葉を頂いた。来年度の「エコシティたかつ」推進フォーラムの内容はまだ決まっていないので、今後詰めていく上で、一つのヒントとして受け止めさせて頂きたい。特に来年度は中期プロジェクトの最終年にあたるため、区民の皆様にもどのように「エコシティたかつ」を広めていくのかを考えていかないといけないと思っている。

(株) フロンターレの恋塚委員からは、「緑のカーテン」に取り組んだお話や、エコ・エネライフコンクールの広報面でのご協力のお話を頂いた。(株) フロンターレは、従前から様々な地域貢献に取り組んでいるが、事務所が高津区内にありながら中々連携する機会がなかったので、今年度は様々な面で連携させて頂いている。先ほど、横山副委員長からのご意見にも関連するが、「エコシティたかつ」推進事業とは異なる事業ではあるが、(株) フロンターレや区内の工業会が連携して、区内の準工業地帯にある地域でその企業がどのような取り組みがなされているのかということを広く区民に知って頂くという提案が採択され、来年度から実施することになった。「エコシティたかつ」の枠組み外ではあるが、工業会との連携も進むかたちになる。今後はダイレクトに事業を通じた連携が進むと思っているので、その中からエコの取り組みを考えていければと思っている。また、中小企業の頑張りをフロンターレの広報力を活かして伝えていくことも区として考えている。

NEC インフロンティアの酒井委員からは、区内企業として協力は惜しまないというありがたいお言葉を頂いた。NEC インフロンティアは壁面緑化の部門では見事な腕前をお持ちなので、今後ともご指導を受けていきたい。また新たな展開が生まれるということなので、その部分でも連携を調整していきたいと思っている。

山口委員からは様々な事業に参加されたご感想を頂いた。久地特別緑地保全地区で活動されているということで、区としては津田山（緑ヶ丘霊園）以外にも緑地を探しているので、可能であれば候補地としてご相談させて頂きたい。円筒分水、かすみ堤は様々な課題があることは事実であるが、多摩川に抜ける緑の面的な利用は必要ではないかという話題が12月の議会でも出ている。今後の展開については、高津区役所単体では動けないので、川崎市全体として調整していきたいと思っている。

田中委員には地形の模型などにご協力を頂いた。川崎国際環境技術展でも立ち止まって手に取って見て頂けるので好評だった。

「エコシティたかつ」でも皆様の様々な活動を取り入れさせていただきたいと考えているので、連携できるような機会があればご提案頂きたいと考えている。(事務局八木課

長)

再度各委員より次のようなご意見・ご感想があった。

- ・本日、チラシを配布しているので見て頂ければと思うが、その一つに明日の午後からヨコハマスマートコミュニティのミニ講座を開催する。スマートコミュニティと聞くと行政がやっているようなイメージがあると思うが、このヨコハマスマートコミュニティは中小の事業者がやっており、川崎市内でも取り入れられるようなこともあるのではないかと考えている部分もあるので、是非ご参加いただきたい。(竹井委員)
- ・私たちの団体が抱えている市民活動と地域住民の関係の課題について皆様にお話ししたい。私たちの団体は10年ほど蛍の放流に取り組んでいる。毎年6月に鑑賞会を開催しており、毎年約7,000人の参加者があった。数年前から地域の方の中で、鑑賞会中に近隣のスーパーの駐車場を占拠してしまう問題が起き、スーパーからもクレームが来ている。そのような問題を受けて、去年は開催を中止にした。大きな宣伝などせず、そっとやっているが、今後どうしていくのか差し迫った問題と思っている。(山田委員)
- ・雨水利用の話が先ほど話題になっていたが、地球温暖化の適応策として保水浸透をやっていくのであれば、それをエコ・エネライフコンクールなどでもメッセージとして打ち出していく必要があるのではないかと考えている。(住田委員)
- ・川崎フロンターレは、Jリーグの成績をしっかりとしつつ、地域対しても推進力を発揮し、自分たちのできる貢献をしていきたい。(恋塚委員)
- ・先ほどから少し話題に出ているが、川崎市の建設局緑政局緑政課との協働事業で高津区内にある久末ふれあいの森の緑地保全に取り組むことになり、今年度計画を作成していた。我々企業と行政、地域ボランティアの3者で覚書を締結し、本格的に取り組んでいくことになる。動き出して成果が出るようになれば、次回の推進会議において、お話しさせて頂きたいと思っている。(酒井委員)
- ・溝口第2町会では、防災を兼ねて井戸を掘った。井戸水をどう利用していくのか検討していくことを今年のテーマである。(横山副委員長)
- ・学校流域プロジェクト内にあるビオトープの維持管理等のボランティアの構想が現段階であればお聞かせ願いたい。(山口委員)
- ・私は、地学の教師をしており、生物を教えるのは得意ではないが、子ども向けに理科の実験教室をやっているので、日曜日や夏休み等にお声掛け頂ければご協力したいと思っている。(田中委員)
- ・初めて参加させて頂いて、皆様のお話を伺っていると大変活発に活動されているという印象を受けた。環境局としては、地球温暖化、ゴミ、アセスなど幅広く取り組んでいるが、CC 川崎エコ暮らしということで低炭素社会をどのように実現させていくのかという取り組みもしている。

先ほど、岸先生がおっしゃっていた水の健全循環だが、昨年川崎市においても水環境



保全計画を策定した。水循環の必要性を位置づけ、今年の 4 月以降になるが雨水浸透マスを取り入れていくことが考えている。今までは雨水浸透は規制されていたが、住宅関係において、少しずつ広めていくよう舵を切っている状況だ。

低炭素化については、これまで以上に太陽光エネルギーだけでなく、省エネ、蓄エネの支援を始めており、生物多様性の地域戦略も策定途中である。緑政関係においても、企業と連携し植樹等を今まで以上に行っていく。

最新の話題として、プラスチックの容器を全市で分別することとゴミの回収を週 3 日から 2 日に切り替えるということがある。このキャンペーンを行うために新しいキャラクターがこの 3 月にできた。他のキャラクターと連携して、様々なキャンペーンを行っていく。また、環境局としては、環境技術による国際貢献を行っている。その中核として、臨海部のキングスカイフロントにて環境研究センターを開設した。3 月末に「まちびらき」というイベントを開催する予定でいる。

環境教育としては、一昨年 6 月に環境教育推進法が改正され、昨年の 10 月から完全施行となっている。今まで環境教育に取り組んでこられた事業者の施設が一定の要件を満たすと、法的に認証できることが始まった。川崎市としては、現在 4 つの施設を認証している。今後、環境教育の推進にご活用頂ければと思っている。(藤巻委員)

山口委員の発言を受けて、事務局から次のような回答があった。

- ・ビオトープの学習支援や維持管理を支えるボランティア育成について、詳細な予定は個今後明確にしていくところだが、まずは教職員向けの学習会をしっかりと実施し、先生方への理解を深めた上で、地域の方が学校に入って活動していくことの理解も得ていこうと考えている。小学校によっては、一足飛びに学校に地域の方が入ることを良しとしない学校もあるので、急がずに関係者と調整した上でやっていきたいと考えている。(事務局八木課長)

## 6 まとめ

### 岸委員長よりまとめ

「エコシティたかつ」の話を初めて受けた時は、温暖化の緩和策を中心としたものだった。私は学術としての本職が生物多様性なので適応策が専門だ。温暖化は緩和策と適応策と生物多様性の 3 つが一本の幹に統合されて推進されるべきという固い信念がある。ようやく国際的にもその部分が理解されてきたと思っておる。本日委員の皆様のお話を伺っていて、色々なところに根を張り、広げ、先の 3 本が「エコシティたかつ」としてまとまってきたなと思っている。世界の変化について、ポイントだけお話しするが、緩和策が世界の中心という時代はおそらく終わりを迎えるだろう。なぜかというと、いくら努力しても炭酸ガス削減が実現しないことにある。そもそも温暖化対策が緩和策に走った要因には、2007 年に開催された第 4 次 IPCC で、その柱の一つに緩和策が挙げられていたことにある。

来年は、第 5 次報告をまとめる国際会議が横浜で開催される。おそらく、ここで議論されるのは緩和策ではなく、適応策となるだろう。現在、その国際会議で報告される資料が公表されており、そこに海面上昇が 2100 年に 20 cm と予測されていたものが、大幅に変更され平均で 80 cm、最大で 1m を超えるという予測が示されている。来年日本は初めて国際会議で深刻な世界の状況と直面することになると思われる。「エコシティたかつ」は、緩和策・適応策・生物多様性と 3 本の枝を張っていたが、適応策の部分に陽が当たり全体が大きく成長するかもしれない。

以上

## 第2回「エコシティたかつ」推進会議 次第

日時：平成25年3月18日（月）13時30から

場所：高津区役所 第1会議室

### 1 開会

### 2 区長あいさつ

### 3 議事（質疑応答含む）

#### （1）2012年度 「エコシティたかつ」推進事業の報告

ア エコ・エネライフコンクール2012

イ 2012年度「エコシティたかつ」推進事業

#### （2）次年度の方向性について

ア エコ・エネライフコンクール2013

イ 2012年度「エコシティたかつ」推進事業

#### （3）各委員からの年間活動の感想等について

#### （4）その他

### 4 まとめ

資料1 たかつエコ・エネライフコンクール2012」の取り組みについて

資料2 2012年度事業報告パワーポイント資料

資料3 「エコシティたかつ」推進フォーラム開催結果

資料4 「エコシティたかつ」推進フォーラム アンケート集計結果

資料5 たかつエコ・エネライフコンクール2013（案）

資料6 「エコシティたかつ」推進事業 プロジェクト展開スケジュール（案）

資料7 「エコシティたかつ」推進会議 委員名簿

## 【資料 1】

資料 1

### 「たかつエコ・エネライフコンクール2012」の取り組みについて

エコシティたかつ推進方針に基づき、「身近にできるエコ活動」を合言葉に高津区民、および高津区内の事業者を対象に「緑のカーテン」や「エコロジーなレシピ」を募集するコンクールを実施。

一人ひとりが身近なところからアクションを起こすことにより、地域の二酸化炭素を削減し、低炭素・省資源社会の実現及び地球温暖化防止に対する興味の喚起を目的としている。

緑のカーテンの普及とコンクールへのエントリーを促すことを目的として、夏前に緑のカーテンづくりの講習会を開催。今年も100名の参加者を得た。

また、表彰式に合わせ、「たかつエコ広場」を開催し、「身近にできるエコ活動」のさらなる普及に努めた。

#### 1 緑のカーテン講習会

6月16日（土）高津区役所、橘出張所 各50名の参加。

緑化センター職員による緑のカーテン作りの講習とゴーヤの苗のプレゼント

#### 2 「たかつエコ・エネライフコンクール2012」

独自のアイデアを活かしたエコ活動に取り組んでいる区民、高津区在勤、在学者、区内事業者にエントリーを呼びかけ。

募集期間 平成24年8月1日（水）～平成24年9月28日（金）

協賛企業 16社

アサヒ飲料(株)、アサヒビール(株)、NECインフロンティア(株)、  
エリーパワー(株)、(株)フロンターレ、(株)ケイエスピー、(株)近藤工芸、  
JAセレサ川崎、シップスレインワールド(株)、(株)タウンニュース社、  
日本理化学工業(株)、みぞのくち新都市(株)、(株)みつや園、(株)モスワールド

協力 高津区区民会議、城南信用金庫

応募件数 26点

緑のカーテン 個人・ファミリー部門 6名・6点  
緑のカーテン グループ・事業者部門 3団体・3点  
エコレシピ部門 個人9名・16点、事業者1団体・1点

審査会 平成24年10月22日（月）高津区役所5階会議室

審査委員 高津区区民会議委員長 佐藤 忠氏

「エコシティたかつ」推進会議 横山 茂氏

「エコシティたかつ」推進会議 川崎市立梶ヶ谷小学校長 岸 秀子氏

NECインフロンティア(株) 酒井 富雄氏

元気な高津をつくる会会長 田邊 弘子氏

高津区長 秋岡 正充

受賞者 緑のカーテン 個人・ファミリー部門

最優秀賞	岩見 久美子さん
優秀賞	坂口 昌秀さん
エンジョイ賞	高梨 竹子さん
アイデア賞	渡辺 英志さん

緑のカーテン 団体・事業者部門

最優秀賞	川崎市高津スポーツセンター
優秀賞	川崎市男女共同参画センター
努力賞	城南信用金庫溝ノ口支店

エコレシビ部門

最優秀賞	該当なし
優秀賞	加瀬 真樹子さん
子どもにやさしいで賞	鈴木 沙妃さん
がんばりましたで賞	萩原 徳子さん

**3 「たかつエコ広場」の開催**

平成24年11月11日（日）午後1時30分より区役所1階市民ホールにて開催

- 13:30～ 講演（緑のカーテン応援団 三ツ口 拓也氏）
- 14:30～ 「たかつエコ・エネライフコンクール2012」表彰式
- 15:00～ エコレシビ試食会（グリーンコンシューマーグループ）

※ 開催時間中、「たちばな農のあるまちづくり」のコンセプトにより、橘地区で生産・収穫された野菜を販売（実費提供）

**4 来年度の方向性**

別紙「たかつエコ・エネライフコンクール2013 案」のとおり



エコシティ たかつが わたしの自然もつなぐ

■日時:平成25年2月23日(土)  
13:00~15:30

■天候:晴れ

■場所:川崎市立緑ヶ丘公園

■面積:約59.0ha

■地理:多摩川流域、  
標高45m前後の丘陵地

■講師:岸 由二委員長  
(慶應義塾大学経済学部教授)

■参加者:約30名



エコシティ たかつが わたしの自然もつなぐ

■森の環境調査

■遊水地の生きもの調査

■外来植物の除去作業





エコシティ たかつが わたしの自然もつなぐ

■森の環境調査

- ・アオキ、シロダモといった常緑樹により、太陽の光が遮られた暗い森
- ・保水力が落ち、雨により侵食された地面、流された土で埋まった側溝




エコシティ たかつが わたしの自然もつなぐ

■遊水地の生きもの調査

確認できた生きもの

- ・アメリカザリガニ
- ・ヌマエビ
- ・ヨコエビ
- ・ミズムシ
- ・アカムシ



エコシティ わたしたちの自然を大切に たかが

■外来植物の除去作業  
トキワツユクサ【常緑露草/別名：ノハカタカラクサ】



有毒植物、外来種は有害な影響を及ぼす恐れがあります。特に、  
子供が誤って食べると、嘔吐や下痢、アレルギー反応を引き起こす  
可能性があります。  
また、土壌を汚染し、他の植物の成長を阻害することから、人  
間生活に支障を及ぼす恐れがあります。ユウレイソウ、アザミ等と同  
様に、根が深く伸びることが特徴的な毒草として、注意が必要です。  
また、葉の裏面に白い粉状の分泌物を分泌して臭いを発する、有毒の  
分泌物が、皮膚に接触すると、かぶれやアレルギー反応を引き起こす  
可能性があります。また、呼吸器に吸入すると、アレルギー反応を引き  
起こす可能性があります。

エコシティ わたしたちの自然を大切に たかが

■トキワツユクサの除去作業





エコシティ わたしたちの自然を大切に たかが

エコシティホール化プロジェクト



エコシティ わたしたちの自然を大切に たかが

緑のカーテン事業の展開

そして、区役所や橋出張所、道路公園センターで育てたゴーヤーを、区役所食堂で提供！

区役所産ゴーヤーランチ、区民の皆さんにも御馴染みになってきました（8月中旬～9月中旬に実施）






エコシティ たかつ — わたしと地球をつなぐ —

- エコシティホールツアーの継続実施
- エコシティホール普及啓発冊子の作成




産学官連携による共同研究



エコシティ たかつ — わたしと地球をつなぐ —

(株)モスワールド・東京農業大学・高津区役所  
「コケ緑化の省エネ効果検証」  
道路公園センタープレハブ倉庫

夏場の実験データを取得するため、継続実施



エコ企業調査プロジェクト、中間報告会



エコシティたかつ ～わたしの地球をつなぐ～

■日 時：平成24年11月9日（金）  
 ①エコ企業調査 12:30～14:40  
 ②中間報告会 14:50～16:00

■企 業：映光産業（久地4-10-11）

■専 業内容：産業廃棄物の収集運搬並びに処理処分

■参 加 者：「エコシティたかつ」推進会議委員 10名

■BDFで移動





「エコシティたかつ」推進フォーラム




エコシティたかつ ～わたしの地球をつなぐ～

「エコシティたかつ」推進フォーラム  
 ～たかつつながる・生きものの輪と防災まちづくり～

■日 時：平成24年12月2日（日）13:30～15:30

■場 所：高津区役所 1階 市民ホール

■参加人数：約100名

★第1部 学校ピクトブ交流会  
 【発表校】観ヶ谷小学校、末長小学校、積小学校、久本小学校

★第2部 講演：「東日本人震災からの復興まちづくり」  
 大船渡市綾里地区の支援を中心に  
 首都大学東京 都市環境学部 慶庭准教授

★「エコシティたかつ」の取組みや市民活動団体の取組みの展示  
 【協力】下作延小学校、高津小学校、南原小学校  
 かわさきかえるプロジェクト  
 高津区市民健康の森を育てる会  
 ニヶ鍋用水ウォッチング・フォーラム  
 田中委員（高津科学クラブ）





各種啓発、イベント




エコシティたかつが「わたしと地球をつなぐ」

### 川崎国際環境技術展2013への出展




- 3年連続での出展(区役所では、高津区のみ)
- メインテーマ:「たかつ水と緑の探検隊」




エコシティたかつが「わたしと地球をつなぐ」

### 大山街道を冷やせ!!! 「エコシティたかつ」打ち水大作戦



- 日時: 7月29日(日)高津区民祭  
13:45~14:10
- 場所: 大山街道大石橋~  
大山街道ふるさと館(約100m)
- 参加者: 約100名



	打ち水前	打ち水後	差
気温	33.5	32.6	-0.9
路面	56.5	43.7	-12.8

**「エコシティたかつ」推進フォーラム  
「～たかつでつながる・生きものの輪と防災まちづくり～」開催結果**

■日 時：平成24年12月2日（日） 13:30～15:30

■場 所：高津区役所 1階 市民ホール

保健ホールにて「エコシティたかつ」や区内小学校でビオトープを活用した授業の  
成果物、市民活動団体の環境の取り組みを展示

■主 催：「エコシティたかつ」推進会議、川崎市高津区役所

■来場者数：約100名

■プログラム

【第一部】学校ビオトープ交流会

児童による区内の小学校にあるビオトープを活用した学習の発表

●発表校：梶ヶ谷小学校、末長小学校、橘小学校、久本小学校

●講評：岸 由二委員長（「エコシティたかつ」推進会議・慶應義塾大学経済学部教授）

【第二部】講演：「東日本大震災からの復興まちづくり」大船渡市綾里地区の支援を中心に

●講師：饗庭 伸氏（首都大学東京 都市環境学部准教授）



■推進フォーラム概要

1 【第一部】学校ビオトープ交流会

(1) 梶ヶ谷小学校 3年生の発表

春・夏・秋と季節に応じたビオトープと学習した生きものの変化について発表。

【会場からの感想（抜粋）】

- ・春・夏・秋と観察を行ってビオトープの様子を知るとはとても大切なことだと思います。また、発表会に参加して、私の学校以外の学校のビオトープについて詳しく知ることができました。学んだことをこれからのビオトープ活動に活かしていきたいと思いました。（橘小学校児童）
- ・観察の視点が鋭く、ビオトープの生き物を見つけたり、生き物の精密な絵も描いていたり素晴らしいと思った。今回、ビオトープの発表を通じて児童同士のつながりというもの生まれたが、生き物もビオトープを介してつながっていると思っている。梶ヶ谷小学校のヤゴがトンボになって、他の小学校に行くような環境が整備していけるのではないかなと思っている。今後は、勉強だけでなくビオトープもしっかりと守って欲しいと思う。（秋岡区長）

(2) 末長小学校 理科委員会（5年生・6年生）の発表

ビオトープを新たに整備し、これから作っていく取り組みとビオトープができることで変化する周辺環境について学習した内容を発表。

【会場からの感想（抜粋）】

- ・自分たちでビオトープの池を作って、より良いビオトープにしようと努力していて、良いなと思いました。また、学内にポスターを貼って低学年にもわかってもらうようにしているのも良い取り組みだと思いました。(久本小学校児童)
- ・ビオトープを作るところからやっているのが羨ましいと思った。これから植物も大きくなっていくとビオトープに集まってくる生きものも増えてくると思う。皆さんは卒業してしまうが、卒業後も小学校に戻って自分たちが作ったものがどうなったのかを見に行くと楽しくなると思う。(「エコシティたかつ」推進会議 田中委員)

### (3) 橘小学校 5年生の発表

ビオトープについてその役割や学習の内容を発表。

#### 【会場からの感想(抜粋)】

- ・田んぼとビオトープがつながっていることにびっくりしました。(梶ヶ谷小学校児童)
- ・今日はどんな発表をされるのかと、ワクワクして来た。本当によくまとまっていて、立派な発表だったと思う。

私は、橘小学校付近の高津区市民健康の森で日々、活動を行っている、橘小学校の皆さんは、以前から蛍の飼育などの取り組みをして来ているが、今日の発表を聞いて学ぶことの大切さ、続けることの大切さ、自然を守ることの大切さを教えて頂いた。これからは是非継続して欲しい。(「エコシティたかつ」推進会議 山田委員)

### (4) 久本小学校 5年生の発表

ペンギン池と呼ばれるビオトープとそれを活かした学習と身近な自然環境を学ぶ取り組みについて発表。

#### 【会場からの感想(抜粋)】

- ・ビオトープを利用してクロメダカの実験をしたり、八ヶ岳の自然環境で学んだことを踏まえて小学校のビオトープを考えたりしていることが、すごいと思いました。(末長小学校児童)
- ・きちんと目的を持って学習に取り組んでいる様子が良く分かった。そして、生きものの住みやすい環境を皆さんが考えて継続的に観察している点に感動した。継続した観察は、その次につながると思う。

もう一つは八ヶ岳の生態系と比較しながら、今自分たちができること、自分たちが安心して生活できる環境を考えていることが素晴らしいと思った。

本口発表のあった小学校の皆さんは、それぞれが自分のことだけでなく、先につなげていく発表をしていたと思う。(高津区役所子ども支援室 三ツ木室長)



## (5) 表彰

「エコシティたかつ」推進会議 岸委員長より表彰とプレゼントの贈呈。

## (6) 岸委員長より講評

元気に良い発表をして頂いてありがたく思う。今後ビオトープをどう利用していったらよいかということと話したいと思う。今日は、3年生の発表が一組だけだったが、生きものに対する感覚は3年生から4年生にかけて大きく変わる。「気持ち悪い・かわいい」という素直な感覚を持ってビオトープの生きものに触れる機会をもってもらいたい。

今日皆さんが発表してくれたのは「池のビオトープ」という。日本は一時期、「池のビオトープ」をたくさん作ったので、ビオトープというと池をイメージするようになったが、ビオトープは生きものの住む場所を指すので、池だけではない。「池のビオトープ」は作ると、空を飛んで色々な生き物が集まってくるので、とても面白い。どんな工夫をしてお客さん(色々な生き物)が集まってくるのかを考えていって欲しい。

今日発表してくれた学校のビオトープの水は雨水を使ったものと、湧水を使ったものがあった。このプロジェクトについて、高津区では「学校ビオトープ」と呼ばずに、「学校流域」と呼んでいる。雨が降ると水が谷に流れる台地の基本構造を「流域」と呼んでいて、そこで水循環を考えている。雨水を溜めると学校のビオトープなどに使える。

また、ビオトープは、池の他に草や森のビオトープがある。どのような草や木を植えたら、どのような生きものが来るか、まだまだやれることは、たくさんある。そういうことを是井これからも考えて楽しく学んでいって欲しい。

## 2 【第二部】講演：「東日本大震災からの復興まちづくり」大船渡市綾里地区の支援を中心に

首都大学東京の饗庭 伸氏から地形を意識した東日本大震災の復興の取り組みについて発表があった。

現在、大船渡市役所の主導で復興計画を作っており、その過程で住民のワークショップがあった。しかし、大船渡市自体が非常に大きな自治体のため、各地区について細かい計画が立てられたわけではなく、また、計画と平行して地元では復興委員会が立ち上がっており、地元の要望をまとめて行政とのやり取りを続けていた。皆非常に熱心であるため、様々な意見が出て、具体的な計画がまとまらないので、専門家の話を聞きたいという要望があがり、私に依頼していただいた。

具体的には、先ず地形模型を持って行った。そうするとたくさんの方が集まり、色々な話が出てきた。他



には、個別に話を聞いていかないとまとまらない部分もあったので、地元で 10 名ほどの方を選出させていただいて地震前の生業や今後の復興について話を伺った。また、幅広く住民の意見を聞くために、大きな地図を用意して地区の方に話を聞くことも行った。さらに、集められた情報をニュースにして発信してきた。今年の 5 月の連休から現地に入って、ワークショップ 2 週間に 1 回ほどを進めてきた。そして、いくつかの集落に関しては地区計画案のたたき台が見えてきた。



ワークショップの様子（スライドより）

### 【事例（抜粋）：小石浜地区】

#### （1）震災直後の状況

- ・浸水ラインの内側で家屋等が少し流されただけで、亡くなられた方は一人もいない。また、家屋は無事だったが、ライフラインが 2 ヶ月ほど止まってしまった。

#### （2）計画案のたたき台

- ・地域に入る前に岩手県で、11m の防潮堤を沿岸に建設するということが決まっていた。この地域は過去に津波の被害も受けていたため、地域の住民も防潮堤が建設されること自体に反対はなかった。しかし、防潮堤をどう作るかという議論だけを進めてきており、防潮堤の入り口の数について、住民と県では、議論があったようだ。
- ・防潮堤の入り口と道路を決める際に「逃げ地図」という地図を作成した。これは浸水ラインと道路の交わったところに印を付け、浸水ラインの内側にいる方々がその印まで辿り着ければ生き延びられるというものを示した地図となる。その後、印から浸水ラインの内側に向かって 3 分間でどのくらいの距離を歩けるのかを色分けした。この「逃げ地図」により地域のリスクを視覚化し、計画案を取りまとめた。
- ・次に、集落から普段仕事をしている港までの道のりを同じように入りが 1 か所の場合と 2 か所の場合で色分けしていった。この結果、入りが 2 か所あってもほとんど変化がなかったため、入り口は 1 か所でも良いということが分かった。
- ・11m の防潮堤の建設は了承していたが、研究室の学生が完成イメージを作って見せたところ、後悔の声が上がった。コンクリートむき出しでは、圧迫感があるので、そうならないデザインを決めるワークショップを行い、その場で学生がパソコンで作業しながら防潮堤のデザインを決めていった。これが良いのか悪いのか議論はあるが、こうしたツールを利用していくとしっかりと話がまとまっていくということが分かった。

地元でしっかりと話し合いをすると、東京の人たちが考えているものよりもはるかに良い案が出てくる。今後、復興の計画を実現していく過程で、細かい話も出てくるが、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいと思っている。

岩手県と東京都の年間所得の平均を比較してみると 170 万円ほど違うにも関わらず、現地では東京都同じように豊かな生活を送れている。これは、農業や漁業など自然と都市との関係、地域でお互いに支えあうコミュニティが成立していたことが大きいと思う。しかし、震

災によってその関係性が壊れてしまった。震災前では身寄りがない方が地域や自然との関係の中で支えられて生きてこられたのが、震災以後その関係性がなくなり、生活していくことに困難な状況にある。これからの復興まちづくりは、その関係性の修復を考慮に入れながら進めていく必要があるだろう。

### 3 本日のまとめ 「エコシティたかつ」推進会議 岸委員長

都市計画を策定にあたって、先ず土地利用の計画を行う。被災地の多くはおそらく都市計画区域がかかっているかかかっていないと思う。これはある意味でも幸いなことだ。都市計画区域を当てはめると、現在の国法は地形を参照する必要がない。気仙沼付近の地域などは都市計画区域がかかっているの、地形を無視して住宅が建つのではないかと心配している。何はともあれ、地形を参照するための地形図を作るというのはとても重要なことだ。

もう一点重要なこととして、これから 50 年、100 年先を考える復興と銘打っているのに、豪雨や洪水による海面の上昇を考慮されていない。これを考慮しないで長期計画を立ててよいのか疑問である。今回、津波があつて安全だった高台も豪雨になり、洪水があれば大きな被害を受ける可能性がある。もっと恐ろしいのは津波に対する防潮堤や防潮林をつくろうと計画しているが、専用のソフトを見てみると気仙沼付近は事実上海抜ゼロメートルに近い。温暖化が一番深刻に進むと海面が 100 年後数メートルから最大 5 メートル上がると言われている。それを勘案すると、私に復興計画の相談のあつた地域は全て水没してしまう可能性がある。

「エコシティたかつ」は今ある問題に対応するために 100 年先と言っているのではない。生物多様性や豪雨の被害は 100 年後もおおよそ検討がついている。それに対して、まちづくりを考えたときに、流域ということで考えておかないといけない。豪雨が突然ひどくなったときに、それから考えたのでは遅い。そのため、「学校流域プロジェクト」や「水と緑の探検隊」で練習していきたいと考えている。

### 4 【「エコシティたかつ」の取り組み・市民プロジェクト・学校流域プロジェクトのパネル展示の様子】



以上



【資料 4】

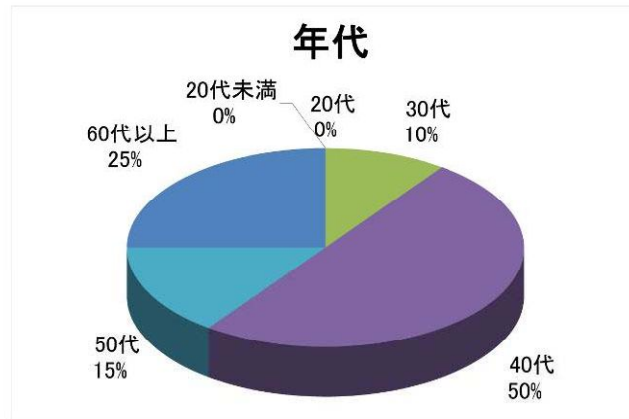
資料 4

平成24年度「エコシティたかつ」推進フォーラムアンケート集計結果

アンケート回答数 20 アンケート実施日 2012年12月2日(日)

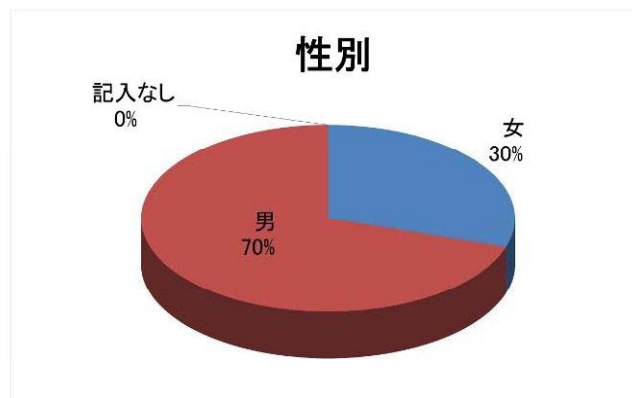
1 年代

20代未満	0
20代	0
30代	2
40代	10
50代	3
60代以上	5



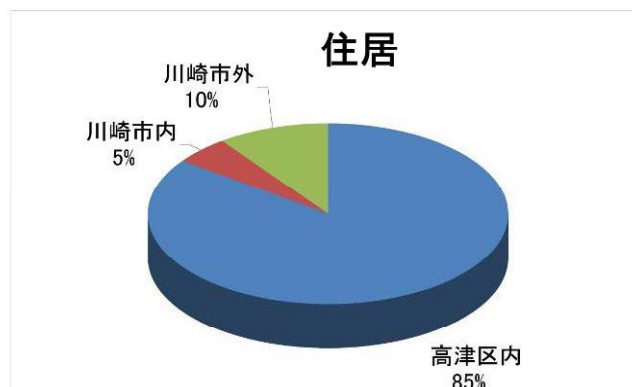
2 性別

女	6
男	14
記入なし	0



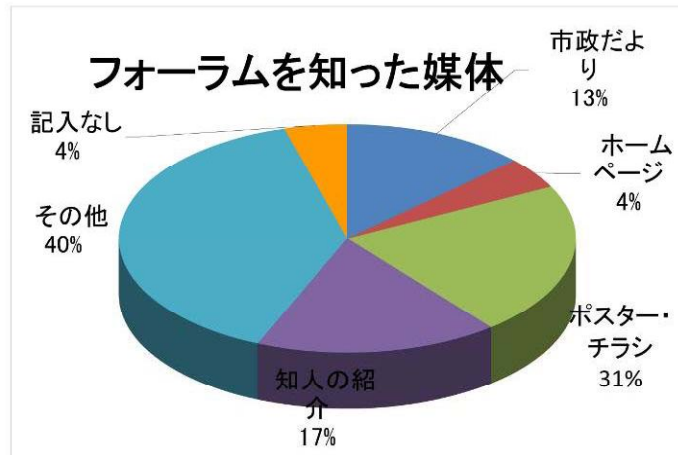
3 住居

高津区内	17
川崎市外	2
川崎市外	1



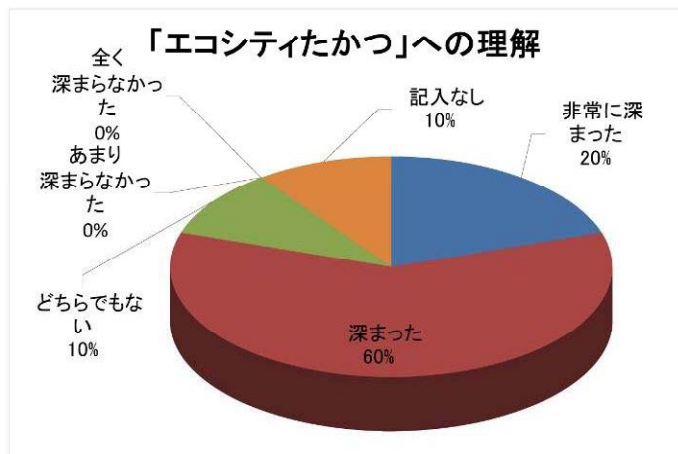
#### 4 フォーラムを知った媒体(複数回答あり)

市政だより	3
ホームページ	1
ポスター・チラシ	5
知人の紹介	4
その他	9
記入なし	1



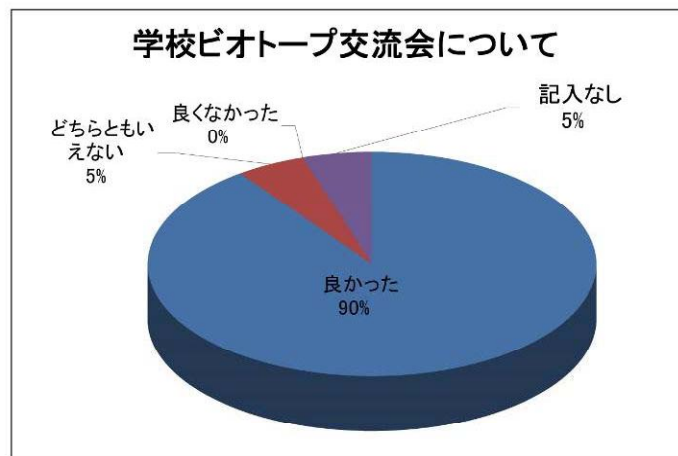
#### 5 「エコシティたかつ」への理解

非常に深まった	4
深まった	12
どちらでもない	2
あまり深まらなかった	0
全く深まらなかった	0
記入なし	2



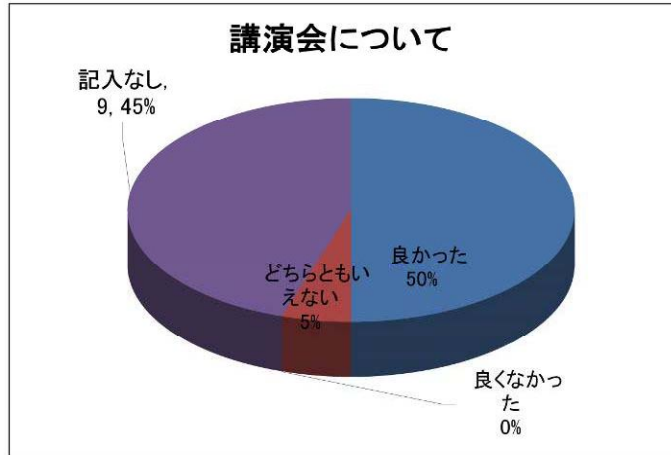
#### 6 フォーラムの内容について (1)学校ビオトープ交流会

良かった	18
どちらともいえない	1
良くなかった	0
記入なし	1



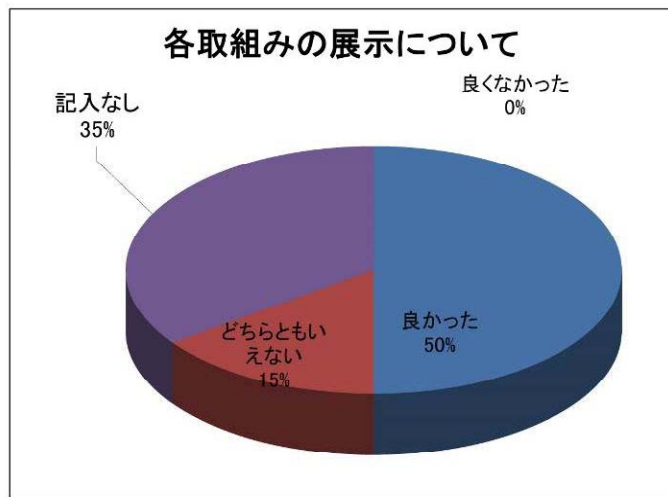
(2) 講演会

良かった	10
どちらともいえない	1
良くなかった	0
記入なし	9



(3) 各取組みの展示

良かった	10
どちらともいえない	3
良くなかった	0
記入なし	7



## 7 その他意見一覧

### (1)「4 フォーラムを知った媒体」(合計9件)

- ・神奈川新聞
- ・小学校からのお知らせ(4件)
- ・学校ビオトープ交流会参加者
- ・エコたか委員
- ・子供、出演者の家族(2件)

### (2)「7 フォーラムの内容についての意見・感想」(複数回答あり・合計9件)

- ・子供たちの頑張って取り組んでいる様子がよくわかりました。
- ・他校の生徒から感想・意見を発表する方式もよかったと思います。
- ・子供にエコについて考えさせる良い機会になったと思います。
- ・流域の話は興味がある。
- ・饗庭先生の話は良かったです。
- ・実際に現地に行って、普通のボランティアとは異なる支援が聞けて勉強になった。
- ・講演の内容が「エコシティたかつ」にもっと関連のあるような話だったら良かったのに。防災まちづくりとしては良かった。
- ・学校ビオトープ交流会を見学しましたが、子どもたちが真剣に取り組んでいることを知り、感心しました。親として大人たちもきちんと取り組んでいきたいと思いました。
- ・各取り組みの展示について、展示団体の増加を望みます。

【資料5】

# たかつエコ・エナライフコンクール2013 (案)

資料 5

目的・ねらい	2013年の方向性	2012年の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にできる省エネルギー活動等の区民間での共有化</li> <li>・環境配慮意識の醸成</li> <li>・区内の環境資源の再認識</li> <li>・身近な地域からの環境まちづくり</li> </ul>	<p>身近にできる活動を区民に広めることに重点を置く。</p> <p>「水と緑の探検隊事業」の本格的始動にあわせて身近にある自然に着目した部門を加える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募者の減少</li> <li>・エコレシビ部門におけるわかりやすい評価基準の確立</li> <li>・募集部門の明確化</li> <li>・企画内容の吟味及び十分な周知期間の確保</li> </ul>
<h2 style="color: white;">参加しやすいコンクールへ</h2>		
改善点・対策	改善点・対策	改善点・対策
<p><b>募集部門の見直し</b></p> <p>◆募集部門を見直し、増設することにより参加の門戸を広げる！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>緑のカーテン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■従前からの取組みの継続</li> <li>■身近にできる活動の普及</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>雨水利用自慢</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■2013年の新たな部門</li> <li>■身近にできる活動の普及</li> </ul> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p><b>自然の風景写真</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■身近にある自然に着目</li> <li>■環境資源の再認識</li> </ul> </div>	<p><b>広報活動・応募方法の工夫</b></p> <p>◆各部門に合わせた広報活動の展開</p> <p>◆募集方法を工夫することで、応募を手軽に！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>広報活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■従来からの広報の他、区内の写真店へのチラシの設置</li> <li>■CCかわさきが行っている雨水貯留槽設置助成金の受給者へのアプローチ</li> <li>■ゴーヤ等の植付け時期に合わせた市政だよりへの掲載</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>応募方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■従来からの方法（郵送・持込）の他、電子メールでの受付の検討</li> <li>■記載事項を減らし、気軽に応募できる応募用紙の作成</li> </ul> </div> </div>	<p><b>審査・表彰の見直し</b></p> <p>◆審査に区民を加え、従来以上の環境活動の周知効果を期待！</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>審査及び表彰</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■従来の審査委員会における審査に加え、幅広く区民が参加できる手法の検討</li> <li>■多様な視点からの評価と表彰手法の検討</li> </ul> </div>

【資料6】

eco-city takatsu 「エコシティたかつ」推進事業 プロジェクト展開スケジュール (案)

資料 6

短期の「12のプロジェクト」 2009～2010	中期的なプロジェクト 2011～2013 (第3期実行計画期間)	長期的なプロジェクト案 2014～2018
<p><b>リーディングプロジェクト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>地図による地域環境資源の共有化の促進</b> 水系や流域等のランドスケープを重視し、地域資源を入れたベースマップの作成に市民協働で取り組む。また、高津区ヒートアイランドプロジェクトとして、区民参加のヒートアイランド調査を実施した。</li> <li>●<b>エコシティホール化の推進</b> 庁舎を環境展示場「エコシティホール」とし、来庁者への環境教育の場とする。高津区役所庁舎屋上に10㎡の太陽光発電システムを設置し、7月1日に記念セレモニーを実施した。</li> <li>●<b>緑のカーテン事業の展開</b> 「緑のカーテン」などの環境にやさしい活動の普及啓発・拡大のためのコンクール等を実施した。</li> <li>●<b>各種普及啓発イベントの実施</b> 水との共生をテーマとした「全国円筒分水サミット2011 in たかつ」を、全市展開する二ヶ瀬用水400年記念事業と連携して実施した。</li> <li>●<b>学校流域プロジェクト</b> 学校を、地域のモデル基地と位置づけ環境学習を実施する。2009年度までの4校に加え、2010年度は、新規2校で事業を実施した。</li> <li>●<b>緑地区の農産資源を活かしたまちづくり</b> 緑地区の地域資源を活かしたまちづくりに取り組む。</li> <li>●<b>「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」の推進</b> 湧水・緑地・花のまちづくりを推進する。2010年度は、キラリデッキ付近の街路樹等を整備した。</li> <li>●<b>雨水利用の促進</b> 雨水利用促進のため、雨水タンクのモニター3組とともに、一年間のモニター活動及びアンケート調査を実施した。また、学校流域プロジェクトとも連携して取り組んだ。</li> <li>●<b>再生可能エネルギーの利用促進</b> 高津区役所庁舎屋上に10㎡の太陽光パネルを設置し、設置費は、エコシティホールツアー等により、区民への普及啓発活動を推進する。</li> <li>●<b>「まちなか油田プロジェクト」の調査・研究</b> 市民協働による区内資源循環の調査支援を行った。</li> <li>●<b>エコ企業調査プロジェクト</b> 区内企業、商店街を訪問し、企業と市民等のネットワークづくりに向けた取組を進める。</li> <li>●<b>「エコシティたかつ」推進のための体制づくり</b> 多様な主体の参加、連携と類型や効果的な情報発信等を行う推進体制づくり。</li> </ul>	<p><b>高津区全域での取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>各種普及啓発活動の推進 (推進会議及び推進フォーラムの開催・運営)</b> 今日的な課題に対し、区民向けの各種普及啓発活動を、区民協働(市民・事業者・学校)で実施し、その中で「地球温暖化防止活動推進センター」等との連携を模索する。 ○「エコシティたかつ」推進会議を年3回(6、10、3月)開催する。 ○「エコシティたかつ」推進フォーラムを開催する。 ○エコ・エナライフコンクールを実施する。 ○地球温暖化防止活動推進センターとの連携 「06かわさき交流コーナーにおける「エコシティたかつ」のパネル設置(常設)」 ○節電啓発活動の実施 ○市民主体の各種プロジェクト等の側面的な支援を実施する。</li> <li>●<b>行政区レベルでの環境マネジメントの実践的な取組</b> 区における全事務事業をエコの視点から見直し、総合的に展開する。</li> <li>●<b>緑地区の農産資源を活かしたまちづくりの推進</b> 緑地区の地域資源を活かしたまちづくりに取り組む。</li> <li>●<b>「たかつの自然の賑わいづくり」事業</b> 水系や流域等のランドスケープや生物多様性の視点を踏まえ、区内を流れている河川の小流域を単位として水・緑・生きもの調査(外来植物や外来生き物探しを含む)を市民協働で行い、さまざまな活動を通して、保水力・土砂防災力の高い流域づくりへの貢献及び自然の賑わいの回復を目指す。 ○「たかつ水と緑の探検隊調査」を2か所で実施し、温暖化適応的な改善策を部分的・段階的に進めていく。 ※候補地：市立緑ヶ丘公園ほか</li> <li>●<b>円筒分水、かすみ堰を活かした「緑の回廊」づくりの推進</b> 区の地域資源である円筒分水やかすみ堰の活用を進めるとともに、二ヶ瀬用水から多摩川へ通じる緑の回廊(コリドー)づくりに区民協働で取り組む。</li> <li>●<b>学校流域プロジェクト</b> 学校を、健全な水循環と生きもの賑わいを再生し支える地域のモデル基地と位置づけ、地域と密着した環境学習を実施する。現在14校整備済み。 ※整備未実施の子母口小は、2014年度以降の改築工事終了後に整備予定。 ○学校ピオトーブ(池、林等)の整備支援及び定期的な環境学習支援を行う。 特別支援学校(市立養護学校)へのピオトーブ整備の検討・調整・実施 ○雨水利用の促進等のモデル的な取組について検討・調整していく。 ○学校ピオトーブを活用した環境学習の指導・育成として、教職員向けの学習会等を開催する。(年1回程度) ○学習支援を支えるボランティア・スタッフ等の育成を検討する。</li> <li>●<b>エコシティホール化の推進</b> 区役所庁舎を環境展示場「エコシティホール」とし環境学習の場として活用した環境啓発を実施する。 ○「エコシティホールツアー」により、見学者への案内を通して、環境啓発を行う。 ○産学官連携の共同実験を実施する。「ウレタン基塗料による屋上緑化生育実験」 ○地球温暖化防止活動推進センターとの連携 「夏休み自由研究」と連携した、エコシティホールツアーの開催</li> </ul>	<p><b>小流域単位での取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>自然環境・地域環境に配慮した新たなエコ・コミュニティの検討</b></li> <li>●<b>生物多様性の視点によるまちづくりの検討</b></li> <li>●<b>小流域単位の健全な水循環の推進</b></li> </ul> <p><b>これからの検討課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>自然共生都市再生の推進に向けた区としての総合行政の展開</b></li> <li>●<b>都市の農産空間を活かしたまちづくりの推進</b></li> <li>●<b>環境負荷の小さい地域交通政策の検討</b></li> <li>●<b>環境活動・環境資源の保全に関する新たな資金支援制度の創出</b></li> <li>●<b>中長期的な視点からのまちのあり方に関する検討</b></li> <li>●<b>環境視点からの区役所事業の横断的展開</b></li> </ul>

## 【資料 7】

資料 7

## 「エコシティたかつ」推進会議 委員名簿

氏名	所 属	職 名
岸 由 二	慶應義塾大学経済学部	教 授
田 中 友 章	明治大学理工学部	准教授
竹 井 斎	川崎市地球温暖化防止活動推進センター	センター長
長 村 吉 洋	ニヶ領用水ウォッチング・フォーラム	副代表
山 田 利 雄	高津区市民健康の森を育てる会	相談役
伊 中 悦 子	高津区まちづくり協議会	運営委員
住 田 三 枝 子		公 募
田 中 艸 太 郎		公 募
山 口 茂 宣		公 募
横 山 滋		公 募
酒 井 富 雄	NECインフロンティア株式会社(区内企業)	環境管理センター マネージャー
恋 塚 唯	株式会社川崎フロンターレ(区内企業)	集客プロモーショング ループ 副グループ長
秋 元 和 彦	株式会社ミットヨ(区内企業)	総務2課課長
鈴 木 和 彦	川崎市新エネルギー振興協会(株式会社イスズ)	会 長
岸 秀 子	川崎市立小学校長会高津支部(梶ヶ谷小学校)	小学校長
鈴 木 克 彦	川崎市教育委員会 総合教育センター カリキュラムセンター	指導主事
武 田 良 知	川崎市高津区役所	副区長
藤 巻 浩	川崎市環境局環境調整課	課長
金 子 浩 美	川崎市環境局地球環境推進室 (国際環境施策推進・市民協働・再生可能エネルギー担当)	担当課長
磯 田 博 和	川崎市建設緑政局計画部企画課	課 長
高 倉 昭 彦	川崎市高津区役所子ども支援室(学校・地域連携担当)	担当課長
大 川 弘	川崎市高津区役所道路公園センター(協働推進担当)	担当課長

(敬称略)

氏名	所属	職名
<b>【事務局】</b>		
八 木 亮 子	高津区役所まちづくり推進部企画課	課 長
佐 藤 園 子	高津区役所まちづくり推進部企画課	担当係長
久 保 拓 治	高津区役所まちづくり推進部企画課	職 員
田 島 薫	高津区役所まちづくり推進部企画課	職 員
鈴 木 哲 朗	高津区役所まちづくり推進部地域振興課	課 長
山 口 精 司	高津区役所まちづくり推進部地域振興課	課長補佐
菅 谷 理 美	高津区役所まちづくり推進部地域振興課	職 員
<b>【コンサルタント】</b>		
藤 枝 香 織	特定非営利活動法人 まちづくり情報センター かながわ	理事・事務局長
上 村 耕 平	特定非営利活動法人 まちづくり情報センター かながわ	事務局スタッフ

## 2. 平成24年度エコ企業調査プロジェクト実施報告書

日時	平成24年11月9日（金） 12：30～14：40
調査対象企業	<p>企業名：株式会社光洲産業 光洲エコファクトリー川崎・久地</p> <p>所在地：川崎市高津区久地4-10-11</p> <p>事業内容：産業廃棄物の収集運搬並びに処理処分</p> <p>稼働時間：8：00～18：00（受け入れは17：00まで）</p> <p>創業：1982年</p>
参加者	<p>【「エコシティたかつ」推進会議委員】</p> <p>竹井委員、長村委員、伊中委員、住田委員、山口委員、横山委員、酒井委員、秋元委員（秋元委員の部下安藤氏も同行）、武田委員</p> <p>【事務局】</p> <p>八木課長、佐藤係長、久保</p> <p>【コンサルタント】</p> <p>上村</p>

### 1 実施内容

#### 【12：40 高津区役所発】

- ・エコバス（廃油を活用したバイオディーゼル車）で現地まで移動。
- ・車内にて、スケジュール及び調査企業について、事務局久保より説明。
- ・エコバス及び、「川崎まちなか油田コンソーシアム」について、伊中委員より説明。



資源循環を目指し、一般家庭からの使用済みてんぷら油を回収して、リサイクル石鹼を製造している。それだけでは集めた油が余ってしまうので、バイオディーゼル燃料の製造に取り組んでいる。今年の11月に市民の協力によって燃料製造機を購入し、NPO川崎市民石鹼プラントに設置することが出来た。現在、回収・製造・使用の環境循環の輪が広がっている。

今年は環境省のCO2削減のための助成金を取得し、エコバスを14回、バイオディーゼル燃料を使用するディーゼル発電機を町内会のお祭りで使用するというプロジェクトに取り組んでいる。こうした活動を通して、資源循環で生まれた燃料がバスやトラック、発電機にも利用できるということを証明し、地域の中にもエネルギーがあることを知ってもらいたいと思っている。

今回のエコバスも「川崎まちなか油田コンソーシアム事業」の一環ということで、利用して頂いている。川崎油田プロジェクトは「エコシティたかつ」から始まり、6年間かけて高津区から川崎7区全体にまで展開できた。

【13:00～14:15 株式会社光洲産業 光洲エコファクトリー川崎・久地内見学】

■統括、副統括から企業と工場の概要説明

<概要>

- ・2012年で創業30周年となる。住宅街の中にある工場であるが、創業以来近隣からのクレームや、川崎市からの指導もなく、適正に処理を行ってきた実績がある。
- ・久地の工場は創業以来地域の工務店など、地場のお客様から愛されてきた。
- ・処理方法は昔ながらの手法をとっており、「焼却するもの」、「リサイクルするもの」の分別を従業員の手作業で行っている。



<環境に配慮した取り組み>

- ・地球温暖化対策の取り組みとして、横浜工場へ来年の1月を目処に、電気重機の導入を検討している。また、工場内の電球を徐々にLED化していくことも事業計画に組み込んでいる。
- ・リサイクル率の向上を一番の目標としている。横浜工場ができる以前は、搬入量の60%ほどしかリサイクルができなかったが、現状は97%ほどがリサイクルできている。今後は100%に近づけることを目標としていきたい。



<地域との関わり>

- ・地域の自治会へ参加し、納涼会やお祭りにも協力させてもらっている。
- ・盆と暮れには、近隣の住宅を一軒ずつ回り、気がづかないところで近隣に迷惑をかけていないか地元の人たちの声を聞いている。こうしたことで、近隣からのご理解を頂きながら、事業を行ってきた。
- ・毎年行なっているイベントとして、高津小学校5年生の社会科見学の受け入れを行なっている。



### ■手選別ライン・磁性機の見学

- ・コンベアラインで手作業にて、品目別に選別。
- ・金属は磁性機を用いて、磁力で吸いつけて選別。
- ・雨天時は機器や、従業員が雨に濡れることなく作業が出来るよう、屋根が開閉する仕組みとなっている。(写真右上)



### ■搬入ラインの見学

- ・受付にて、許可品目以外を積載していないかマニフェストチェックを済ませた搬入車は、オペレーターの誘導により工場内に入る。
- ・複数の搬入車が場内にいる場合、安全に配慮し、ダンプアップは同時に行なう。



### ■環境や近隣を配慮した取り組み

- ・場内に入る前の待機時には、搬入車両のドライバーにもアイドリングストップに協力してもらっている。
- ・ダンプアップや重機を稼働させている際は散水を行い、周辺への埃の飛散を抑える。
- ・場内外は、扉とカーテンの2重で区切られており、一度に両方を開放させないことにより、場外への埃の飛散を抑える。
- ・搬出時に車両による場外への泥の引きずりを抑えるため、搬出入口には、タイヤを洗浄するための水がはってある。
- ・従業員は日に数回近隣の清掃を行っている。



### ■感想・質疑応答

#### ①質疑応答

- Q1:最初に川崎市の許可で受け入れを行っていると説明があったが、受け入れを行っていないものとは何か。



A 1: 基本的には産業廃棄物と一般廃棄物の違いだが、爆発性があるものやアスベストは処理ができないので受け入れていない。石綿外用建材(解体等の作業レベル3)については、積み替えの許可を頂いているので、宇奈根工場で積み替えて処理先に委託することはあるが、破碎など自社で処理や選別することはやっていない。アスベスト含有物は複雑なので、基本的に疑わしいものは受け入れない。どうしても受け入れることとなる場合は、排出業者に組成分析をお願いしている。



Q 2: ISO 14001の取得は、9年前と聞いていたが、川崎市内でも早い時期にしていたのか。

A 2: 2002年の1月に取得し、11年目に入っている。ゼネコンを相手として、産廃業者でISO 14001を持っていないのは、評判が悪くなる。この他、東京都の産廃エキスパート(収集・運搬)も取得している。そういったかたちで優良企業として認められている。



Q 3: 30周年ということで、当初から環境対策をしていたのか。

A 3: 収集運搬と積み替え保管から始まり、創業当時は環境法が整備されていなかったので事業の展開に併せて徐々に壁を上げるなどの対策をしていった。産業廃棄物処理を始めてから、98%は建材を対象としており、有害物質は扱っていない。

Q 4: 廃棄物については、排出事業者の責任も大きいと思っているが、御社のポリシーである「資源循環型の社会」を実現するために、排出業者にこれだけはやって欲しいということはあるか。もう一点、昨年法律改正により、排出事業者には実地確認が義務付けられたが、その改正を受けて排出事業者の意識がどのように変わったのか。

A 4: 排出事業者さんに求めるのは、分別をお願いしたい。分けないことには、リサイクルは進まない。極論になってしまうが、ペットボトル1本をリサイクルするにしても中の洗浄、ラベルやキャップの処理と手間がかかる。ここをやってもらうだけでもコスト削減につながる。例えばここに紙類が混ざってしまうと、手間がかかり、分別できない場合は焼却処理となってしまう。ゼネコン等の現場では分別回収を行う提案をしている。

実地確認については、あくまでも努力義務なので、その意味ではあまり変化はない。しかし、ゼネコン等では年1回の処分場の視察をやるどころなど増えてきている。年間でこの久地工場単体で見ると、排出事業者から30件ほどの工場見学依頼が来る。ただ、近代的な設備を持っている横浜の工場にどのようにリサイクルを実現しているのか見学に来る場合が多い。

Q5：従業員の労災に対する対策はどのようなことを行っているか。

A5：簡単なものだが、現状だと釘の踏み抜きやカッターでの怪我が多かった。釘の踏み抜きについては、安全靴の内にセラミックの板を入れることを徹底させている。カッターの使い方は手順書を作り、使い方の指導を行っている。こうした対策によって、発生件数は減少している。

## ②委員からの感想（発言）

- ・私は近くに住んでいて、工場の前を自転車やバスで通ることがよくあるが、今回初めて内に入り、環境対策や周囲への配慮を目の当たりにして、これであれば安心だと思っている。

【14：40 高津区役所にて解散】

以 上

### 3. 「エコシティたかつ」推進フォーラム ～たかつでつながる・生きものの輪と防災まちづくり～ 開催記録

■日 時：平成24年12月2日（日） 13:30～15:30

■場 所：高津区役所 1階 市民ホール

保健ホールにて「エコシティたかつ」や区内小学校でビオトープを活用した授業の成果物、市民活動団体の環境の取り組みを展示

■主 催：「エコシティたかつ」推進会議、川崎市高津区役所

■来場者数：約100名

#### ■プログラム

##### 【第一部】

学校ビオトープ交流会

児童による区内の小学校にあるビオトープを活用した学習の発表

●発表校：梶ヶ谷小学校、末長小学校、橘小学校、久本小学校

●講評：岸 由二委員長（「エコシティたかつ」推進会議・慶應義塾大学経済学部教授）

##### 【第二部】

講演：「東日本大震災からの復興まちづくり」大船渡市綾里地区の支援を中心に

●講師：饗庭 伸氏（首都大学東京 都市環境学部准教授）

#### ■推進フォーラム概要

##### 1 開会

進行役 高津区企画課八木課長より開会宣言

##### 2 区長挨拶

秋岡区長より挨拶。

本日、区内4校の小学校の児童の皆さんから学校流域プロジェクトの一つ、ビオトープを使った学習とその成果をお話し頂けるということで、非常に楽しみにしている。

後半では、まちづくりの専門家である首都大学東京の饗庭伸准教授から地域の地形を意識した東日本大震災の復興支援の取り組みを伺っていきたい。「エコシティたかつ」は、考え方の根底に大地のでこぼこを意識した暮らしやまちづくりに取り組むという理念があり、饗庭先生のお話にも相通ずるものがあると考えている。

本日は短い時間ではあるが、様々な方面から環境問題に取り組むきっかけとなったら良いと願っている。

### 3 プログラム説明

進行役 企画課八木課長より説明。

### 4 【第一部】学校ビオトープ交流会

#### (1) 梶ヶ谷小学校 3年生の発表

春・夏・秋と季節に応じたビオトープと学習した生きものの変化について発表。

#### 【発表に対して会場から出た感想】

- ・発表を聞いて、梶ヶ谷小学校のビオトープについて詳しく知ることができました。春・夏・秋と観察を行ってビオトープの様子を知るとはとても大切なことだと思いました。橘小学校でも、春・夏・秋と観察を行ってみるとさらに良いビオトープになるのかなと思いました。絵や写真を使って説明を進めていてより内容が分かりやすいと思いました。発表会に参加して、私の学校以外の学校のビオトープについて詳しく知ることができました。学んだことをこれからのビオトープ活動に活かしていきたいと思いました。(橘小学校児童)
- ・梶ヶ谷小学校のビオトープは、四季によって生きものが違うということが分かりました。橘小学校でも四季によって生きものの種類が違うのかなと思いました。(橘小学校児童)
- ・観察の視点が鋭く、ビオトープの生き物を見つけたり、生き物の精密な絵も描いたりと素晴らしいと思った。今回、ビオトープの発表を通じて児童同士のつながりというものは生まれたが、生き物もビオトープを介してつながっていると思う。梶ヶ谷小学校のヤゴがトンボになって、他の小学校に行くような環境が整備していけるのではないかなと思っている。今後は、勉強だけでなくビオトープもしっかりと守って行って欲しいと思う。(秋岡区長)



#### (2) 末長小学校 理科委員会 (5年生・6年生) の発表

ビオトープを新たに整備し、これから作っていく取り組みとビオトープができることで変化する周辺環境について学習した内容を発表。

【発表に対して会場から出た感想】

- ・自分たちで植物を植えたり生物を放流したりしているので、ビオトープの仕組みを知ることが出来てとても良いと思いました。また、どのような生きものがやって来るのかを調べているのもすごいです。(久本小学校児童)
- ・理科委員会さんは自分たちでビオトープの池を作って、より良いビオトープにしようと努力していて、良いなと思いました。また、学内にポスターを貼って低学年にもわかってもらうようにしているのも良い取り組みだと思いました。(久本小学校児童)
- ・ビオトープを作るところからやっているのが羨ましいと思った。これから植物も大きくなっていくとビオトープに集まってくる生きものも増えてくると思う。皆さんは卒業してしまうが、卒業後も小学校に戻って自分たちが作ったものがどうなったのかを見に行くと楽しくなると思う。(「エコシティたかつ」推進会議 田中委員)



(3) 橘小学校 5年生の発表

ビオトープについてその役割や学習の内容を発表。

【発表に対して会場から出た感想】

- ・田んぼとビオトープがつながっていることにびっくりしました。(梶ヶ谷小学校児童)
- ・橘小学校は、ビオトープについて本やコンピューターを使って調べていることがすごいと思いました。(梶ヶ谷小学校児童)
- ・今日はどんな発表をされるのかと、ワクワクして来た。本当によくまとまっていて、立派な発表だったと思う。私は、橘小学校付近の高津区市民健康の森で日々、活動を行っている、橘小学校の皆さんは、以前から蛍の飼育などの取り組みをして来ているが、今日の発表を聞いて学ぶことの大切さ、続けることの大切さ、自然を守ることの大切さを教えて頂いた。これからも是非継続して欲しい。(「エコシティたかつ」推進会議 山田委員)



(5) 久本小学校 5年生の発表

ペンギン池と呼ばれるビオトープとそれを活かした学習と身近な自然環境を学ぶ取り組みについて発表。

【発表に対して会場から出た感想】

- ・ビオトープをよく観察し絵などに描いて分かりやすく伝えていることがすごいと思いました。(末長小学校児童)
- ・ビオトープを利用してクロメダカの実験をしたり、八ヶ岳の自然環境で学んだことを踏まえて小学校のビオトープを考えたりしていることが、すごいと思いました。(末長小学校児童)
- ・きちんと目的を持って学習に取り組んでいる様子が良く分かった。そして、生きものの住みやすい環境を皆さんが考えて継続的に観察している点に感動した。継続した観察は、その次につながると思う。

もう一つは八ヶ岳の生態系と比較しながら、今自分たちができること、自分たちが安心して生活できる環境を考えていることが素晴らしいと思った。

本日発表のあった小学校の皆さんは、それぞれが自分のことだけでなく、先につなげていく発表をしていたと思う。(高津区役所子ども支援室 三ツ木室長)



## 5 表彰

「エコシティたかつ」推進会議 岸委員長より表彰とプレゼントの贈呈。



## 6 岸委員長より講評

元気に良い発表をして頂いてありがたく思う。今後ビオトープをどう利用していったらよいかということをお話したいと思う。今日は、3年生の発表が一組だけだったが、生きものに対する感覚は3年生から4年生にかけて大きく変わる。「気持ち悪い・かわいい」という素直な感覚を持ってビオトープの生きものに触れる機会をもってもらいたい。



今日皆さんが発表してくれたのは「池のビオトープ」という。日本は一時期、「池のビオトープ」をたくさん作ったので、ビオトープというと池をイメージするようになったが、ビオトープは生きものの住む場所を指すので、池だけではない。「池のビオトープ」は作ると、空を飛んで色々な生き物が集まってくるので、とても面白い。どんな工夫をすればお客さん（色々な生き物）が集まってくるのかを考えて欲しい。

今日発表してくれた学校のビオトープの水は雨水を使ったものと、湧水を使ったものがあつた。このプロジェクトについて、高津区では「学校ビオトープ」と呼ばずに、「学校流域」と呼んでいる。雨が降ると水が谷に流れる台地の基本構造を「流域」と呼んでいて、そこで水循環を考えている。雨水を溜めると学校のビオトープなどに使える。

また、ビオトープは、池の他に草や森のビオトープがある。どのような草や木を植えたら、どのような生きものが来るか、まだまだやれることは、たくさんある。そういうことを是非これからも考えて楽しく学んで欲しい。



## 7 【第二部】

講演：「東日本大震災からの復興まちづくり」大船渡市綾里地区の支援を中心に

首都大学東京の饗庭 伸氏から地形を意識した東日本大震災の復興の取り組みについて発表があった。

先週現地に行って市民の方々とワークショップを行ってきた。彼らは非常にまじめで、真剣に復興のことを考えている。私も長年まちづくりに携わっているが、普通の町でまちづくりをやるとういとうと、大変だとか、行政がやればいいというように話に乗ってこない場合が多い。写真は、岩手県大船渡市であり、皆たくさんのことを考えていて、想いが強いので、いざ集まって話をすると中々まとまらない状況だった。私が取り組んでいることは、そういった場に入って行って皆が話やすい、まとまりやすい場を作り、そこから計画にまとめていくお手伝いである。具体的には、皆が見やすいところに地形模型を置いておくと、指をさしながら「ここはこうなっている、ここはこうしよう」等、どんどん話が出てまとまっていく。

大船渡市は、リアス式海岸で湾の形が非常に複雑なため、津波の被害が極端に高いところと、そうでもないところと分かれている。ここは、湾の奥に集落が張り付くようにして発展している。私が支援に行っているのは、三陸町の綾里地区という地域である。この地域は、これまでに日本で一番津波の被害を受けている地域になるため、過去に壊滅的な被害を受けた際に生き残った方たちが高い台に移転して生活している。

写真を見ると非常に切り立った場所に石垣を積んで無理に住宅を建てていることが分かる。この町の人口は2,000名ほどだが、亡くなった方は26名ほどだったので、相対的には少ないと言われている。これは、皆自分たちの祖父の代から津波の被害についての話をすり込まれており、震災の際は逃げ方が非常に上手かったためだ。



岩手県大船渡市 綾里地区 (饗庭伸氏のスライドより)



ワークショップの様子（饗庭伸氏のスライドより）

現在、大船渡市役所の主導で復興計画を作っており、その過程で住民のワークショップがあった。しかし、大船渡市自体が非常に大きな自治体のため、各地区について細かい計画が立てられたわけではなく、計画と平行して地元では復興委員会が立ち上がっており、地元の要望をまとめて行政とのやり取りを続けていた。冒頭に申し上げたように、皆非常に熱心であるため、具体的な計画がまとまらないので、専門家の話を聞きたいという要望があがり、私に依頼していただいた。

具体的には、先ず地形模型を持って行った。そうするとやはりたくさんの方が集まり、色々な話が出てきた。他には、個別に話を聞いていかないとまとまらない部分もあったので、地元で10名ほどの方を選出していただいて地震の前の生業や今後の復興について話を伺った。また、大きな地図を用意して地区の方に話を聞くことも行った。こうしたことを実施した背景には、綾里地区は復興委員会も立ち上がりしっかりと取り組まれていたが、全住民のうちの一部としか話ができていなかったことがあり、住民の意見を拾いきれていないと思われたためだ。写真にあるように本当にその辺に住んでいる方が、ふらっと入ってきて熱心に議論をしていく場が生まれた。

さらに、集められた情報をニュースにして発信してきた。今年の5月の連休から現地に入って、ワークショップ2週間に1回ほどを進めてきた。そして、いくつかの集落に関しては地区計画案のたたき台が見えてきた。



ここからは、その計画案を具体的に見ていきたいと思う。

#### 【小石浜地区】

##### (1) 震災直後の状況

- ・浸水ラインの内側で家屋等が少し流されただけで、亡くなられた方は一人もいない。また、家屋は無事だったが、ライフラインが2ヶ月ほど止まってしまった。

##### (2) 計画案のたたき台

- ・地域に入る前に岩手県の方から11mの防潮堤を沿岸に建設するということが決まっていた。この地域は過去に津波の被害も受けていたため、地域の住民も防潮堤が建設されること自体に反対はなかった。
- ・防潮堤をどう作るかという議論だけを進めてきた。防潮堤の入り口を1か所にしたいが、岩手県は2か所でなければダメだと言っている状況だった。
- ・防潮堤の入り口と道路を決める際に「逃げ地図」という地図を作成した。これは浸水ラインと道路の交わったところに印を付け、浸水ラインの内側にいる方々がその印まで辿り着ければ生き延びられるというものを示した地図となる。その後、印から浸水ラインの内側に向かって3分間でどのくらいの距離を歩けるのかを色分けした。この「逃げ地図」により地域のリスクを視覚化し、計画案を取りまとめていった。
- ・次に、集落から普段仕事をしている港までの道のりを同じように入口が1か所の場合と2か所の場合で色分けしていった。この結果、入口が2か所あってもほとんど変化がなかったため、入り口は1か所でも良いということが分かった。
- ・11mの防潮堤の建設は了承していたが、研究室の学生が完成イメージを作って見せたところ、後悔の声が上がった。コンクリートむき出しでは、圧迫感があるので、そうならないデザインを決めるワークショップを行い、その場で学生がパソコンで作業しながら防潮堤のデザインを決めていった。これが良いのか悪いのか議論はあるが、こうしたツールを利用していくとしっかりと話がまとまっていくということが分かった。

#### 【中心部地区】

##### (1) 震災直後の状況

- ・この地区は仮設住宅、震災後に建てた公設の住宅、仮設の作業小屋、自力で住宅を建てていこうとしているエリアが混在している。こういった状況では、バラバラの計画が進み、放っておくと低地にも住宅が建てられてしまう危機感があった。

##### (2) 計画案のたたき台

- ・浸水ラインの外側は対象とせず、今回水を被ったエリアについての計画を行った。
- ・エリア内では住宅の高台移転が決まっていたため、その跡地をどう整備するかが計画のポイントである。漁業もこの先見込まれず、人口も減少しているため、跡

地を荒地とせず如何に活用するのかを考えていった。

- 実際に取り組んだことはとてもシンプルで、エリア内の中心辺りに線を引き、それより北側は、大船渡市役所は何もしないと取り決めた。この背景には、大船渡市が被害を受けた部分の土地を購入してくれるのではないかと期待感が地元にあったことがあるが、市に問い合わせたところ全部は買い取れないので、必要な部分だけを購入するというので、その部分の絞込みをおこなった。
- 結論として、北側の部分は防潮林に、市が買い取る南側の部分は漁業系の施設を建設するという事になった。まだ市に対して計画を提案している段階ではあるが、実現の可能性はあると考えている。
- この地区の場合も県や国が 14m の防潮堤を作る計画があったが、住民たちはそれで安全かどうかは信じておらず、そもそも財政破綻で建設できないのではないかと考えていた。

地元でしっかりと話し合いをすると、東京の人たちが考えているものよりもはるかに良い案が出てくる。今後、復興の計画を実現していく過程で、細かい話も出てくるが、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいと思っている。

岩手県と東京都の年間所得の平均を比較してみると 170 万円ほど違うにも関わらず、現地では東京都同じように豊かな生活を送れている。これは、農業や漁業など自然と都市との関係、地域でお互いに支えあうコミュニティが成立していたことが大きいと思う。しかし、震災によってその関係性が壊れてしまった。震災前では身寄りがない方が地域や自然との関係の中で支えられて生きてこられたのが、震災以後その関係性がなくなり、生活していくことに困難な状況にある。これからの復興まちづくりは、その関係性の修復を考慮に入れながら進めていく必要があると思っている。

## 8 本日のまとめ

「エコシティたかつ」推進会議 岸委員長より、次のようなコメントがあった。

都市計画を策定にあたって、先ず土地利用の計画を行う。被災地の多くはおそらく都市計画区域がかかっていないと思う。これはある意味でも幸いなことだ。都市計画区域を当てはめると、現在の国法は地形を参照する必要がない。気仙沼付近の地域などは都市計画区域がかかっているのに、地形を無視して住宅が建つのではないかと心配している。何はともあれ、地形を参照するための地形図を作るというのはとても重要なことだ。

もう一点重要なこととして、これから 50 年、100 年先を考える復興と銘打っているのに、豪雨や洪水による海面の上昇を考慮されていない。これを考慮しないで長期計画を立ててよいのか疑問である。今回、津波があつて安全だった高台も豪雨になり、洪水があれば大きな被害を受ける可能性がある。もっと恐ろしいのは津波に対する防潮堤や

防潮林をつくろうと計画しているが、専用のソフトを見てみると気仙沼付近は事実上海抜ゼロメートルに近い。温暖化が一番深刻に進むと海面が 100 年後数メートルから最大 5 メートル上がると言われている。それを勘案すると、私に復興計画の相談のあった地域は全て水没してしまう可能性がある。

「エコシティたかつ」は今ある問題に対応するために 100 年先と言っているのではない。生物多様性や豪雨の被害は 100 年後もおおよそ検討がついている。それに対して、まちづくりを考えたときに、流域ということで考えておかないといけない。豪雨が突然ひどくなったときに、それから考えたのでは遅い。そのため、「学校流域プロジェクト」や「水と緑の探検隊」で練習していきたいと考えている。

以上

参考資料【「エコシティたかつ」の取り組み・市民プロジェクト・学校流域プロジェクトのパネル展示の様子】

■場 所：高津区役所保健センター



## 4. 新聞記事等

タウンニュース 2012. 7. 13

タウンニュース 2012. 8. 3

高津区役所

### 環境、省エネ活動を審査

環境に配慮した「エコシテイたかつ」事業を推進する高津区は、第4回たかつエコ・エネライフコンクール2012を今年の夏も開催する。主催は「エコシテイたかつ」推進会議ほか。身近に出来るエコライフやエコ活動をコンクールに出品することで、区内にエコの取組みを浸透させるため毎年行っている。

例年の「緑のカーテン（個人・ファミリー部門と団体・事業者部門）」に加え、「エコレシピ部門」が新たに設けられた。「緑のカーテン部門」は朝顔やゴーヤーなど、

8月から募集

つる性の植物を平成24年以降に育て、建物を覆うことで低温効果を図る「緑のカーテン」の省エネ効果や育成に関する創意工夫などを審査。「エコレシピ部門」はオリジナルのエコな料理を募集し、省エネ効果や調理過程での工夫、使用した食材などを審査する。

募集資格は高津区内在住、在学、在勤している個人もしくは団体など。募集

期間は8月1日(水)～9月28日(金)。表彰式は11月11日(日)を予定している。申し込み

・問い合わせは区役所地域振興課(☎044・861・3144)まで。

区役所

### 「緑のカーテンランチ」、今年も5階「レストランたかつ」で8月から



新メニューの「ゴーヤーのかき揚げ丼」を提供する。

高津区役所 5階の「レストランたかつ」は8月16日(木)から9月6日(木)までの毎週木曜、同区役所で収穫したゴーヤーを使用した「ゴーヤーの回鍋肉炒め」各日限定40食で、売り切れ次第終了となる。価格は各500円。午前11時から午後1時半まで提供する。

各日の日替わりBランチとしてゴーヤー料理を楽しめる。8月16日が「ゴーヤーチャンプルー」、同23日が「ゴーヤーと夏野菜のカレシ」、同30日が今年から新たに加えた「ゴーヤーのかき揚げ丼」、9月6日が「ゴーヤーの回鍋肉炒め」。各日限定40食で、売り切れ次第終了となる。価格は各500円。午前11時から午後1時半まで提供する。

同区役所は、緑のカーテンとしてゴーヤーを育てるだけでなく、料理として楽しんでもらいたいと、毎年同ランチを提供。担当者は「ゴーヤーは栄養価が高く、特に『夏野菜のカレー』が人気」と話している。

### 庁舎でエコ活動を推進

高津区役所は、庁舎内各所で環境に配慮した取り組みを行うエコシテイホール化を推進。庁舎をゴーヤーの葉などで覆う「緑のカーテン大作戦」を継続しており、ゴーヤーを使った特別メニューはこの活動で収穫した食材を利用している。

また屋上への太陽光パネルの設置、つる植物の栽培による屋上緑化、雨水を利

用した植物への水遣りも実施。1階駐車場では障害者用の駐車エリアから入口まで遮熱塗装を施し、表面温度を低減しているほか、4階テラスにはビオトープを設置した。

このほか、昨年度末以降、ソーラーパネルでの発電を利用した人感センサー付のLED照明、災害対策用のリチウムイオン蓄電池を設置。エコ活動の実践に力を入れている。

## たかつエコ広場

### 11日、高津区役所で

高津区制40周年記念事業「楽しく・おいしく たかつエコ広場」が11月11日(日)、高津区役所1階市民ホールで開催される。時間は午後1時半から同4時まで、入場無料。主催は「エコシテイたかつ」推進会議、高津区役所。

当日は、NPO法人緑のカーテン応援団から三ツ口拓也さんを講師に迎え、「仮設住宅×緑のカーテンプロジェクト」からみる緑のカーテンの力、と題した講演を行う。また、「たかつエコ・エネライフコンクール2012」の表彰式やエコレシビ試食会のほか、NPO法人ぐらすかわさきによる新鮮野菜の販売会などが行われる。区民や区内の事業所がエコの取組みを応募するエコ・エネライフコンクールには、今年26点の応募があった。

来場者には記念品も用意されている。問い合わせは地域振興課(☎044・861・3144)まで。

## 楽しく「省資源」学ぶ

### コンクール表彰式も実施

区役所で  
エコ・エネ



参加者たちが試食するエコレシビ

高津区制40周年記念事業「楽しく・おいしく たかつエコ広場」が11日、高津区役所で開催された。同イベントは、地球温暖化防止への区民の関心を高め、地域の二酸化炭素排出量の削減につなげるのが目的。当日は来場者約50人がホールを埋めた。

NPO法人・緑のカーテン応援団の三ツ口拓也理事が、緑のカーテンの遮熱効果などについて講演。効果を手のひらで体感する実験や、東日本大震災の被災地での普及啓発活動も紹介した。

### 7個人、3団体を表彰

区がさまざまな事業者、区民から募集した「たかつエコ・エネライフコンクール2012」の表彰式も実施。今年は、緑のカーテンについてだけでなく、新設した「エコレシビ部門」の受賞者も表彰した。

「鍋の水滴を拭いてから火に掛ける」「調理するとき、コンロの火を鍋の幅より小さくする」など、光熱費を節約する調理法で作るのが「エコレシビ」。この日は、エコレシビで作ったアップルヨーグルトケーキとふるふき大根を参加者にふるまう試食会も行われた。高津区役所によると、参加者たちは和気あいあいとした雰囲気です。

たかつエコ・エネライフコンクール2012の受賞者は以下の通り(敬称略)

- ▽「緑のカーテン(個人・ファミリー部門)」最優秀賞/岩見久美子、優秀賞/坂口昌秀、エンジョイ賞/高梨竹子、アイデア賞/渡辺英志
- ▽「緑のカーテン(団体・事業者部門)」最優秀賞/川崎市高津スポーツセンター、優秀賞/川崎市男女共同参画センター、努力賞/城南信用金庫溝ノ口支店
- ▽「エコレシビ部門」優秀賞/加瀬真樹子、子どもにやさしい賞/鈴木沙妃
- ▽「緑のカーテン及びエコレシビ部門あわせて」がんばりました賞/萩原徳子



**ピオトープで学習 小学生が内容発表**  
高津、12月2日

学校内のピオトープを活用した学習内容を小学生が発表する「エコシティたかつ」推進フォーラムが12月2日、川崎市の高津区役所で開かれる。同区と同推進会議の主催で、梶ヶ谷、末長、久本の4小学校児童が参加。午後1時半から。

同区は2008年度に「エコシティたかつ」推進方針を策定。区民・企業・学校などが連携し、「100年後のよりよいまちづくり」を目指して、温暖化防止や生物多様性の確保などの活動に取り組んできた。フォーラムは、その理念を広く理解してもらおうと毎年開催。今回はピオトープを使った環境学習にスポットを当てる。児童らは地域固有の生物の飼育や雨水の循環・積極利用など、ピオトープを舞台にしたさまざまな取り組みを発表する予定。他校の児童と交流を深め、意見交換も行う。

また、岩手県大船渡市で大地の起伏に着目した復興まちづくりを手掛けている

●南武支線で信号トラブル、5時間後に運転再開  
28日午前10時半ごろ、JR南武支線川崎新町駅構内で、停止信号が切り替わらないトラブルが発生、同線は房手浜川崎間の上下線で運転を見合わせた。復旧作業を行い、約5時間後の午後4時ごろ、運転を再開した。

JR東日本横浜支社によると、信号ケーブルの不良が原因という。上下線14本が運休したほか、4本が最大5時間遅れ、約700人に影響した。

**事件簿**

先着1000人で入場無料。問い合わせは、同区企画課 ☎044(861)3131。(高田 俊吾)

首都大学東京の饗庭伸准教授が講演を実施。同区内は山林も多く残り、地形に配慮したまちづくりについて参加者が学ぶ。

先着1000人で入場無料。問い合わせは、同区企画課 ☎044(861)3131。(高田 俊吾)

**動向** 28日

阿部川崎市長「午前」▽総務局長▽金子まちづくり局長▽水野幸三川崎臨港倉庫社長▽三浦病院局長▽秋の祭典・豪華受章者(3名)から受賞報告▽豊本川崎市長「午後」▽若手職員研修II市長講話▽専修大学生らから市場スイーツの披露▽経済労働局▽新聞社インタビュー▽市民「こども局」小島弘・世界平和研究所参事ら。

**「エコシティたかつ」環境とまちづくり学ぶ**  
12月2日、区役所で

「エコシティたかつ」推進フォーラム「たかつつながる・生きものの輪と防災まちづくり」が12月2日(日)、高津区役所5階第1会議室で開催される。時間は午後1時半から同3時半まで(開場は同1時)。主催は「エコシティたかつ」推進会議、高津区役所。参加

費は無料、申込み不要、当日、参加者にはプレゼントが用意されている。

第1部では学校ピオトープ交流会が行われ、区内の小学校に通う児童が、ピオトープを活用した学習発表をする。梶ヶ谷、末長、高津、久本小学校の児童が参加する予定。

**ピオトープ学習 児童が取り組みを発表**

学習結果を発表する児童

「エコシティたかつ」推進フォーラムが12月2日、高津区役所で行われた。環境に配慮した取り組みを進める高津区役所と「エコシティたかつ」推進会議が「生きものの輪と防災まちづくり」をテーマにフォーラムを開いた。

当日は学校ピオトープ交流会として、区内の小中学生による各学校のピオトープ紹介が行われ、梶ヶ谷、末長、橋、久本小学校の児童がそれぞれの学校の取り組みを発表した。

また、東日本大震災被災地である大船渡市綾里地区の復興を支援する饗庭伸准教授(首都大学東京都市環境学部)による講演会が行われると、集まった約120人の区民は真剣な表情で耳を傾けていた。



植物を観察する子どもたち

## 高津区がエコ事業PR

### 国際環境技術展に出展

川崎国際環境技術展が2月1、2の両日、とどろきアリーナで行われ、「エコシティ」事業を推進する高津区がブースを出展した。同事業のひとつ「自然のぎわいづくり」をテーマに、緑に覆われたブースを作り、これまでの取り組みを説明するパネルなどを展示、実際に植物に触れられるコーナーも設置した。300人以上の来場者に

職員が事業の説明を行い、オリジナル缶バッジやコーヤの種を配布。ブースに入りきらないほど来場者で埋め尽くされる時間帯もあった。来場者からは「環境問題、エコについてとても役に立った」「写真が多く分かりやすかった」などの声が聞こえた。

## 「水と緑の探検隊」に40人

### 区内の森林を探索

高津区内の森林を探索し、植物や生物を観察する「たかつ水と緑の探検隊」がこのほど発足し、2月23日に緑ヶ丘霊園で初めての活動を行った。環境に配慮した取り組み「エコシティたかつ」(岸由二推進会議委員長)を進める高津区が、区内に生息する生物や植物の実態を学ぶために開いた。当日は区民など約40人が参加、霊園内の森を専門家と一緒に歩き、解説を受けながら環境調査を実施。遊水地の生き物調査では、アメリカザリガニやミソレヌマエビが発見された。また、ユリやランの発芽を妨げるとして要注意外来植物に指定されているノハカタカラクサ(トキワツククサ)を発見し、全員で駆除を行った。参加者の一人は「駆除を体験して、これほど重労働だとは思わなかった」と話していた。



岸委員長による解説も行われた

---

## 平成 24 年度「エコシティたかつ」推進事業 報告書

発行日：平成 25 年 3 月

発行者：川崎市 高津区役所 企画課

〒213-8570 川崎市高津区下作延 2-8-1

TEL：044-861-3131 / FAX：044-861-3103

Mail：67kikaku@city.kawasaki.jp

---